2023年度
(令和５年度)

大学院履修案内

佐賀大学大学院農学研究科

2023年度(令和５年度)農学研究科授業日程の前半と後半について

春学期（前学期）

	前半（８回）	後半（８回）
月曜日	４／10～５／29	６／５～７／31
火曜日	４／11～５／30	６／６～８／１
水曜日	４／12～６／７	６／14～８／２
木曜日	４／13～６／８	６／15～８／３
金曜日	４／14～６／９	６／16～８／４

秋学期（後学期）

	前半（８回）	後半（８回）
月曜日	10／２～11／27	12／４～２／14
火曜日	10／３～11／21	11／28～２／13
水曜日	10／４～11／29	12／６～２／７
木曜日	10／５～11／30	12／７～２／８
金曜日	10／６～12／１	12／８～２／９

※　後半開講の科目も、前半と同時に履修登録すること。

2023年度(令和５年度)　学年暦及び年間行事予定

春学期

４月１日(土)　春学期始
　　春季休業（４月３日まで）
　４日(火)　2023年度入学式
　５日(水)～７日(金)　オリエンテーション
　10日(月)　春学期開講
７月24日(月)　春学期定期試験時間割発表
　31日(月)　春学期定期試験（８月４日まで）
８月８日(火)　夏季休業（９月30日まで）
９月22日(金)　2023年度学位記授与式＜９月期＞
　30日(土)　春学期終

秋学期

10月１日(日)　開学記念日・秋学期始・秋学期開講
　４日(水)　2023年度大学院入学式＜10月期＞
12月23日(土)　冬季休業（１月７日まで）
１月13日(土)　大学入学共通テスト（１月14日まで）
　31日(水)　秋学期定期試験時間割発表
２月７日(水)　秋学期定期試験（２月14日まで）
３月22日(金)　2023年度学位記授与式＜３月期＞
　31日(日)　秋学期終

授　業　時　間

Ⅰ	Ⅱ	昼休み	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ(夜間)(注)	Ⅶ(夜間)(注)
8:50～10:20	10:30～12:00	12:00～13:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30	19:40～21:10

(注) Ⅵ（夜間），Ⅶ（夜間）は，大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づき行う授業

目次

Ⅰ　農学研究科（修士課程）の概要――1
1　農学研究科の組織構成――1
2　コースの内容――3
3　教育研究分野の内容――4
4　附属アグリ創生教育研究センター――7

Ⅱ　方針，教育・研究，研究指導，修了要件，履修方法――9
1　農学研究科の学位授与の方針――9
2　農学研究科の教育課程編成・実施の方針――9
3　各コースの教育・研究――11
4　研究指導の方法――13
5　修士論文および最終試験の評価基準――14
6　修了要件と学位――14
7　授業科目と履修方法――14
8　大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づく履修方法――15
9　履修手続について――15
10　相談等の連絡先――15

Ⅲ　授業科目，単位数及び開講年次――16

Ⅳ　佐賀大学大学院農学研究科規則――29

Ⅴ　佐賀大学大学院農学研究科履修細則――33

Ⅵ　佐賀大学大学院農学研究科における
修士論文等の提出に関する要領――43

Ⅶ　教育職員免許状（専修）の取得について――46

Ⅷ　鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）について――48

Ⅸ　科目等履修生について――49

Ⅹ　講義室などの配置図――50

Ⅰ　農学研究科（修士課程）の概要

1 農学研究科の組織構成

生物科学コース

グループ	教育研究分野	担当教員	学内内線番号
作物科学	植物遺伝育種学	渡邊啓史　准教授	8741
	作物生態生理学	鈴木章弘　教授	8721
	作物生産学	上埜喜八　准教授	98－2245
	熱帯作物改良学	鄭　紹輝　教授	8723
		藤田大輔　准教授	8724
	植物栄養学	西田　翔　准教授	8720
園芸科学	蔬菜花卉園芸学	一色司郎　教授	8740
		辻田有紀　准教授	8752
	施設園芸学	後藤文之　教授	8748
	アグリ資源開発学	福田伸二　准教授	98－2245
	機能性植物資源学	松本雄一　講師	0955－77－4484
植物保護科学	植物病制御学	草場基章　教授	8727
	線虫学	吉賀豊司　教授	8746
	システム生態学	徳田　誠　教授	8792
動物科学	動物資源開発学	山中賢一　准教授	8735
	動物行動管理学	江原史雄　准教授	98－2245

食資源環境科学コース

グループ	教育研究分野	担当教員	学内内線番号
環境科学	環境土壌科学	徳本家康　准教授	8757
	生産地盤環境学	近藤文義　教授	8761
		宮本英揮　准教授	8759
	浅海干潟環境学	郡山益実　准教授	8760
	水利環境保全学	阿南光政　准教授	8737
	灌漑科学	弓削こずえ　教授	8756
	地域環境学	原口智和　准教授	8743
	生産環境化学	上野大介　准教授	8793
食資源科学	農業生産機械学	稲葉繁樹　准教授	8764
	施設農業生産学	田中宗浩　教授	8798

生命機能科学コース

グループ	教育研究分野	担当教員	学内内線番号
バイオサイエンス	生化学		
	分子生命科学	堀谷正樹　准教授	8782
	機能高分子化学	宗　伸明　教授	8773
	応用微生物学	小林元太　教授	8779
		後藤正利　教授	8780
	藻類・ベントス学	木村　圭　准教授	8496
フードサイエンス	食品栄養化学	永尾晃治　教授	8781
	食糧安全学	濱　洋一郎　教授	8783
	生物資源利用学	野間誠司　准教授	8749
		出村幹英　特任准教授	37－6786
	食品機能開発学	井上奈穂　准教授	8786

国際・地域マネジメントコース

グループ	教育研究分野	担当教員	学内内線番号
国際・地域マネジメント	食農ビジネス開発学	辻　一成　准教授	8731
	地域資源学	中井信介　准教授	8739
	地域社会開発学	藤村美穂　教授	8728

2 コースの内容

生物資源科学専攻

専攻名	コース名	コースの内容
生物資源科学	生物科学	広範な生物資源の探索と機能解析，有用生物の育種開発，生態系における生物制御機構の解析，バイオテクノロジーによる新素材の開発等，バイオサイエンスに関する総合的かつ実践的な教育研究を行う。本コースにおける生物機能解析の対象は，遺伝子・細胞・代謝レベルから，生態系における個体レベルまで幅広く，生命・食糧・健康・環境等さまざまな分野の学術と産業発展を先導する先端的な内容である。
	食資源環境科学	地球レベルから地域レベルに至るまでの様々なスケールで生じている環境問題に対処するため，環境に負荷の少ない生物生産環境の創出・保全と豊かな生活環境の創造に関する教育研究を行う。 また，自然科学並びに情報科学の理論と技術を用いた環境に配慮した持続的な手法と高度な管理システムを創造し，地域の農業生産性を高める実践研究を行うと同時に，世界的な食料・環境及び資源循環の問題解決に寄与する教育研究を行う。
	生命機能科学	微生物から高等動植物にわたる多様な生物を対象として，その生命現象と遺伝機能を化学的に解明するための基礎的な教育と研究を行うとともに，生物の特異的な機能を有効に利用して有用物質を生産する方法の開発と，バイオテクノロジーの手法を用いた生物機能の改良を行う。 また，生物資源の持つ機能を食品生化学的・栄養生理学的に究明して，機能性食品及び医薬品への応用を目指すとともに，新しい食品加工・貯蔵技術及び食品素材の開発や食品の安全性に関する教育研究を行う。
	国際・地域マネジメント	日本を含むアジア・太平洋諸地域における①農林水産資源の循環的利用システムと農林水産業関連ビジネスの開発，②地域資源の持続可能な開発と利用システム，③諸民族・地域社会における人間と環境との諸関係，及び④半島・島嶼地域に関するフィールドワーク（実態調査）に基づき，持続可能な循環型地域社会及びその構築方策について実証的に教育研究を行う。

3 教育研究分野の内容

生物資源科学専攻

コース名	教育研究分野	分野の内容
生物科学	植物遺伝育種学	高等植物を対象に，突然変異や遺伝子組換え，マーカー選抜技術を利用した優良品種の開発について教育・研究を行う。
	作物生態生理学	人と地球を救うことを最終目標とし，環境と調和した農業を実現するための教育と研究を行う。具体的には作物と土壌微生物による共生のメカニズムを理解し，それを作物の収量性向上や機能性成分の高生産へ繋げるための研究を推進する。
	蔬菜花卉園芸学	高等植物の生殖生理を基礎とした種苗の生産技術の開発について教育・研究を行う。また，植物の系統進化，植物と菌類との菌根共生系の解明と野生植物の保全について教育・研究を行う。
	熱帯作物改良学	熱帯及び亜熱帯作物の生産力向上のための栽培条件及び品種能力の改良について教育・研究を行う。
	動物資源開発学	哺乳動物における生殖現象の制御機構を明らかにするとともに，それらの知見を用いて生殖技術の向上に寄与する教育・研究を行う。
	施設園芸学	作物生産にとって最適な環境とは何か？園芸施設を有効活用するにはどのような形質が必要か？を明らかにし，それらの知見を基礎にした施設園芸技術の開発を進める。
	植物栄養学	植物が多様な土壌環境に適応する仕組みを明らかにするとともに，植物の栄養に関する様々な課題を解決し，持続的な食糧生産に貢献することを目指した教育と研究を行う。
	作物生産学	資源循環型の食料生産に関する技術を解明し，アグロフィールドの管理と周辺環境の保全に関する教育研究を行う。
	アグリ資源開発学	農業遺伝資源を活用した新品種の開発や栽培方法の確立について教育・研究を行う。
	動物行動管理学	ヒトと動物のより良い共生関係の実現をめざし，ヒトの生活と関わりのある動物の行動と管理，ウェルフェアに関する教育研究を行う。また，限られた環境で生活している動物（家畜）のストレスケアに関する研究を行う。
	機能性植物資源学	機能性食品・化粧品の素材となる薬用植物や機能性農産物，野生遺伝資源を材料に栽培技術の確立や新品種の育成，加工・貯蔵に伴う成分変動に関する教育・研究を行う。
	植物病制御学	植物と病原菌の遺伝的相互作用・発病機構の解明と発病制御並びに植物病原糸状菌の生態・進化の解明について教育・研究を行う。
	植物ウイルス病制御学	植物病原ウイルスの分子進化・分子生態と宿主植物との相互作用の解明について教育・研究を行う。

コース名	教育研究分野	分野の内容
生物科学	線虫学	昆虫病原性線虫及び菌食性線虫の生理生態並びに利用と，植物寄生性線虫の制御について教育・研究を行う。
	システム生態学	昆虫と植物を主対象として，生物多様性の創出・維持機構，生物における生態学的諸特性の解明，および，生物群集のシステム解析について教育・研究を行う。
食資源環境科学	生産地盤環境学	この分野では，農村地域における生産地盤および環境保全に関わる教育と研究を行う。主なテーマは，(1)火力発電所の産業廃棄物である石炭灰の有効利用，(2)地盤沈下や斜面崩壊などの佐賀平野の粘土地盤対策，(3)有田キャンパスと連携した陶磁器粘土の開発とその機能性評価，(4)地盤内部の非破壊モニタリング技術の開発，(5)ICTを駆使したデータ駆動型農業の推進などである。
	浅海干潟環境学	浅海干潟域における生態環境の保全と物質循環について教育・研究を行う。
	水利環境保全学	農業農村地域における水資源と水環境の問題を利水の面からとらえ，水を有効に利用するための計画，管理及び制御と水環境の保全について教育・研究する。
	灌漑科学	農地レベルから広域スケールにおける農業用水管理手法の高度化と持続可能な農村環境の保全および創出について教育と研究を行う。
	地域環境学	農業農村地域の環境保全技術ならびに地域資源の農業への活用技術について教育・研究を行う。
	生産環境化学	環境中に存在する"匂い（におい）"という化学物質を分析化学的・官能的に解析し，生産環境における問題の解決を目指した教育・研究を行う。
	農業生産機械学	機械工学・先端技術・ICT（情報通信技術）の利用を通じて，農業生産・農産物加工に必要な機械の高性能化とエネルギー利用効率の向上，農業における労働負担の軽減を目標とした教育と研究を行う。
	施設農業生産学	農業生産性向上のための施設化及び装置化技術の開発・利用について教育・研究を行う。
	環境土壌科学	最適な土環境維持のための土中の水分・溶質移動の測定・予測手法などを利用して，農地保全に関わる土壌科学について教育・研究を行う。
生命機能科学	機能高分子化学	バイオサイエンス・フードサイエンスの発展に資する新規分析法並びに新規材料の開発を目的とした教育と研究を行う。
	応用微生物学	微生物機能の解明有効利用及び有用物質生産について教育・研究を行う。

コース名	教育研究分野	分野の内容
生命機能科学	藻類・ベントス学	海藻・植物プランクトン・二枚貝を対象に，海の環境変化等に対する応答を分子レベルで解析し，新品種の作出等に応用することを目的とした教育と研究を行う。
	生物資源利用学	食品の利用，貯蔵，加工，バイオマスの質的改良及び利用に関する教育と研究を行う。
	食糧安全学	食品素材の構造研究を基にして，それらの機能性，有効利用ならびに品質評価，安全性に関する教育・研究を行う。
	食品栄養化学	①食品の栄養価値及び食品の栄養生理機能の解明 ②脂質・リポタンパク質の代謝調節
	食品機能開発学	培養細胞や実験動物を用いて，食品，特に農産物や未利用資源に含まれる生理活性物質などの機能性分子の探索や評価に関する教育および研究を行う。主な研究テーマは(1)植物由来機能性成分の評価，(2)機能性脂質による生活習慣病の予防と改善に関する研究などである。
	分子生命科学	タンパク質の機能解析により(ⅰ)生命そのものや，(ⅱ)人工的な困難な化学反応を理解し，得られた知見を産業・創薬分野へ還元することを目指した教育と研究を行う。主な研究テーマは，①先端磁気共鳴法による生物無機化学研究，②ラジカルSAM酵素スーパーファミリーの機能構造解析，③低温適応酵素の分子メカニズムの解明及び人工酵素設計・開発である。
国際・地域マネジメント	食農ビジネス開発学	食料流通経済学と農業経営学に関わる研究と教育を行う。食料流通市場構造を分析し市場対応を検討するほか，生産財，農地，農業労働力，農業金融関連市場について実証的研究を行う。また家族農業経営，集落営農，農業法人を対象に組織，管理について実証的研究を行う。調査対象地は日本国内を中心に東・東南・南アジアである。
	地域資源学	地域資源の適正保全と循環的利用を生態人類学的・人文地理学的に調査研究する。地域資源（生物資源・人的資源・文化的資源）の多様性と伝統的利用形態や生計維持戦略の解明，農地・水・森林資源開発の諸問題や土地利用システムを究明し，多様な動植物相利用，伝統的技術・知恵の伝承性，風土性の現代的意味を再考察し地域資源持続的利用を検討する。
	地域社会開発学	日本や途上国の地域社会の環境問題や生活問題を社会学・民俗学的に調査研究する。地域社会の価値や技術，環境管理システムや環境政策のあり方などを検討することで，環境変化に対する住民及び地域社会の対応と変化を明らかにし，地域社会の持続可能な開発のあり方を提案する。

4 附属アグリ創生教育研究センター

https://www.ag.saga-u.ac.jp/main/440.html

農学は，与えられた自然や地域の条件を十分に生かしながら，人間にとって有益な動植物を合理的に生産し，流通するための総合科学である。穀物，蔬菜・花卉，果樹，家畜などの生産・流通，環境保全において，各方面から実践的な教育・研究を行う施設として，本学部に附属アグリ創生教育研究センターが設けられている。センターは，佐賀市川久保の本部と，唐津市の唐津キャンパスの２ヶ所に分かれている。

センター本部（約10ha）は，わが国の三大沖積平野のひとつである佐賀平野の北部に立地しており，本学から北東へ約12kmにあり，実習用バスで約30分を要する。ここには水田（172a），茶園（14a），落葉果樹園（23a），野菜園（196a），温室（65a），飼料園（232a），放牧場（79a），場外水田（67a），ならびに各種の建物（研究棟，宿泊施設，畜舎，農機具舎など）がある。さらに，本部より北へ約４km離れて，脊振山系の金立山南面の佐賀平野を一望できる地点に果樹園（８ha）がある。ここには世界各地から集めた柑橘類が教育・研究および遺伝資源として栽培管理されている。上記の圃場や施設を活用して，農業生産活動の実践の中から，安心・安全な食糧の生産と流通，環境保全，国際・地域貢献および農業フィールド資源の多面的活用などの領域における諸課題に関する研究と教育を行っている。

唐津キャンパスは，佐賀県北西部の玄界灘に面した地点に位置し，本学から北西へ約50kmあり，ＪＲ筑肥線東唐津駅及び唐津市内産業道路に近接しており，佐賀市からも福岡市からもアクセス条件に恵まれている。総面積は約48aであり，その中に研究棟，ガラス温室および研究圃場がある。

唐津キャンパスでは，地域で生産される植物資源を利用した健康機能開発やコスメティックサイエンスに特化した研究を行い，地域に集積しつつあるコスメティック産業の研究の拠点として地域貢献を目指す。

センターに在籍する大学院修士課程の学生は，下記研究・教育分野の教員の指導の下，修士論文の作成を行う。

施設園芸学分野（後藤文之） 本分野の研究は，本庄キャンパスで行う。（Ｐ４参照）

動物行動管理学分野（江原史雄）

ヒトと動物のより良い共生関係の実現をめざし，ヒトの生活と関わりのある動物の行動と管理，ウェルフェアに関する教育研究を行う。また，限られた環境で生活している動物（家畜）のストレスケアに関する研究を行う。

作物生産学（上埜喜八）

資源循環型の食料生産に関する技術を解明し，アグロフィールドの管理と周辺環境の保全に関する教育を行う。

アグリ資源開発学分野（福田伸二）

佐賀大オリジナル果樹品種の育成を目指して，育種技術の開発（ＤＮＡマーカー）や栽培技術の開発に取り組む。また，アグリ創生教育・研究センターフィールドを活用した実践的な教育・研究も併せて行う。

機能性植物資源学分野（松本雄一）

機能性食品・化粧品の素材となる薬用植物や機能性農産物，野生遺伝資源を材料に栽培技術の確立や新品種の育成，加工・貯蔵に伴う成分変動に関する教育・研究を行う。

Ⅱ 方針，教育・研究，研究指導，修了要件，履修方法

1 農学研究科の学位授与の方針

佐賀大学大学院農学研究科の教育目的に沿った知識・技能を修得し，学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

所定の単位を修得するとともに，修士論文を提出した者に対して修了判定を行い，農学研究科教育委員会及び研究科委員会の議を経て，学長が修了を認定し，学位を授与する。

① 所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において，先端の高度な専門知識を身に付けている。

② 研究活動を通して実践的な知識を身に付けるとともに，科学的思考力と洞察力を養い，専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身に付けている。

③ 専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身に付けている。

2 農学研究科の教育課程編成・実施の方針

教育目的

佐賀大学が立地する佐賀県は，農業，有明海水産業，醸造業，製薬業，窯業などが地場産業として長い歴史を持つ。佐賀大学には，このような地域産業を振興し，新たな地域創生を担う人材を育成する使命がある。また，社会情勢の変化により，農業分野においても，他分野との境界域を超えて，医食同源，機能性食品開発，スマート農業などに代表されるように分野間の融合が進んでいる。農業分野の高度化には，理学，工学ならびに医学の知識と手法も不可欠となっている。

佐賀大学大学院農学研究科では，主たる専門分野における知識を身につけるとともに，大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の履修により，多様化及び高度化する理工学系，医学系の異分野との融合を図り，複眼的視点から科学的な思考ができる専門職業人材を養成することを教育目的とする。

教育課程の編成・実施の方針

本研究科において，以上のような教育目的を達成し，学位授与の方針を具現化するため，以下の方針の下に教育課程を編成し，教育を実施する。

① 学位授与の方針①を達成するために，「専門科目」を配置する。

② 学位授与の方針②を達成するために，「特別研究」を配置する。

③ 学位授与の方針③を達成するために，「大学院教養教育プログラム」及び「自然科学系研究科共

通科目」を配置する。

④　学位授与の方針①②③を達成するために，修士論文の審査及び最終試験を実施する。

1）教育の実施体制

①　全ての授業科目で開講前にオンラインシラバスを作成する。

②　閉講後には学生による授業評価アンケートに基づく教育改善を実施する。

2）教育･指導の方法

①　各授業科目は，シラバスに明示された講義概要，授業計画に従って実施する。

②　各学生に指導教員ならびに副指導教員を配置し，履修指導や研究支援，修士論文執筆指導を行う。

3）学修成果の評価

①　授業科目の学修成果を評価するために，授業科目担当教員は，測定する到達目標の特性に応じて，筆記試験，レポート（論文），発表，活動内容等により多面的評価を行う。

②　個別の授業科目の成績評価方法については，シラバスに明示する。

③　成績評価は成績評価基準に基づき判定する。

評語（評価）	評　　点	評　価　基　準	合否判定	成績評定（GP）
秀	90点以上	学修到達目標を十分に達成し，極めて優秀な成果を上げている。	合　格	4
優	80点以上90点未満	学修到達目標を十分に達成している。		3
良	70点以上80点未満	学修到達目標をおおむね達成している。		2
可	60点以上70点未満	学修到達目標を最低限達成している。		1
不可	60点未満	学修到達目標を達成していない。	不合格	0

※評点は０点から100点とする。

※上記により評価が難しい授業科目は，合又は不可の評語によって表し，合を合格とし，不可を不合格とする。

④　教育課程を通した学修成果を，修士論文及び各授業科目の成績を用いて総合的に評価する。

⑤　成績評価の結果は，評価分布等を使用して定期的に点検を行い，必要に応じて教育方法等の改善を行う。

3 各コースの教育・研究

生物科学コース

本コースの教育課程は，広範な生物資源の探索と機能解析，有用生物の育種開発，生態系における生物制御機構の解析，バイオテクノロジーによる新素材の開発等，バイオサイエンスに関する総合的かつ実践的な教育研究を行う。本コースでは，遺伝子・細胞・代謝レベルから，生態系における個体レベルまで広範な領域における教育研究を実践する。生物科学を基盤とした様々な分野に関する包括的な教育研究を行うことにより，グローバル化時代に対応できる幅広い視野を持って，世界の食糧・健康・環境・生物多様性などの諸問題の解決，生物関連産業の振興および生物科学の発展に貢献できる技術者・研究者を育成する。そのために，(1) 生物科学の領域における先端の高度な専門知識，(2) 生物資源の生産と制御に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力，(3) 専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力，を身に付けることを目標とする。

教育目標１に関して，「選択科目」として「熱帯農業資源学特論」，「熱帯資源植物利用学特論」，「熱帯作物改良学特論」，「熱帯作物生理学特論」，「動物発生学特論」，「動物繁殖生理学特論」，「蔬菜花卉園芸学特論」，「園芸植物資源開発学特論」，「花卉園芸学特論」，「植物ゲノム工学特論」，「植物ゲノム情報科学特論」，「植物ウイルス病学特論」，「植物ウイルス学特論」，「線虫学特論」，「先端線虫科学特論」，「動物行動生態学特論」，「動物行動学特論」，「家畜行動学特論」，「家畜管理学特論」，「作物生産学特論」，「作物生態学特論」，「生産生態学特論」，「循環型農業生産学特論」，「果樹園芸学特論」，「果樹生産学特論」，「施設農業生産学特論」，「農地環境工学特論」，「農地農水計画学特論」，「農用先端機械学特論」，「施設園芸学特論」，「施設環境生理学特論」，「植物栄養生理学特論」，「植物分子栄養学特論」，「園芸利用学特論」，「園芸植物繁殖学特論」を開講している。また，生物科学分野における最先端かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標２に関して，学生同士が切磋琢磨する環境の中で，自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力，自立力等を磨く教育として，「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「生物科学演習Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標３に関して，１年次に「自然科学系研究科共通科目」として「生物科学特論」を開講している。

食資源環境科学コース

本コースの教育課程は，農林水産業の生産基盤整備と環境保全，食資源に関する知識を習得し，農水産業や環境に関連する技術者・研究者となる高度人材を養成することを目的とする。本コースにおいては，農学分野の中でも，特に，農業工学の領域において，水資源及び地盤環境等の生産基盤領域のみならず，バイオマス利活用，環境修復，IT活用に対応した専門性と先端知識を養うために，(1) 食資源環境科学の領域における先端の高度な専門知識，(2) 農業生産や環境に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力，(3) 専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するため

の意欲と実践力の習得，を教育目標とする。

教育目標１に関して，「選択科目」として，「環境地盤学特論」，「環境分析化学特論」，「環境情報工学特論」，「生産情報処理学特論」，「先端情報技術学特論」，「生産エンジニアリング特論」，「先端環境分析化学特論」，「水資源計画学特論」，「分光統計解析学特論」，「土壌物理学特論」，「水環境工学特論」，「生産地盤工学特論」，「浅海環境工学特論」，「先端地水学特論」，「利水解析学特論」，「応用水利学特論」，「土質工学特論」，干潟生態環境学特論」，「植物環境応答学特論」，「応用植物生理学特論」，「植物系統分類学特論」，「植物病原学特論」，「植物感染病学特論」，「昆虫分子生物学特論」，「先端昆虫分子生物学特論」，「システム生態学特論」，「進化生態学特論」，「動物資源開発学特論」，「農業気象学特論」を開講している。また，食資源環境科学分野における最先端，かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」が開講されている。

教育目標２に関して，学生同士が切磋琢磨する環境の中で，自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力，自立力等を磨く教育として，「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「食資源環境科学特別演習Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標３に関して，１年次に「自然科学系研究科共通科目」として「食資源環境科学特論」を開講している。

生命機能科学コース

本コースの教育課程は，生命化学や食料科学を基礎として食品や医薬品の関連産業で技術者・研究者となる高度人材を養成することを目的とする。本コースにおいては，農学の特に農芸化学の領域において，食品の安全や栄養化学，食品加工技術や微生物の応用等，食品の栄養健康機能のみならず，生物資源の化学的利用に関する専門性と先端知識を養うために，(1) 生命機能科学の領域における先端の高度な専門知識，(2) 食料や健康に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力，(3) 専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力の習得，を教育目標とする。

教育目標１に関して，「選択科目」として，「生化学特論」，「タンパク質科学特論」，「微生物遺伝学特論」，「真核微生物学特論」，「応用微生物学特論」，「微生物学特論」，「植物プランクトン学特論」，「海藻学特論」，「バイオセンシング特論」，「バイオ材料特論」，「分子細胞生物学特論」，「細胞情報学特論」，「食品生化学特論」，「食糧流通貯蔵学特論」，「海洋資源化学特論」，「グリコバイオロジー特論」，「バイオメンブレン機能特論」，「食糧安全学特論」，「分子栄養学特論」，「脂質生化学特論」を開講している。また，生命機能科学分野における最先端，かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」が開講されている。

教育目標２に関して，学生同士が切磋琢磨する環境の中で，自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力，自立力等を磨く教育として，「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「生命機能科学特別演習Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標３に関して，１年次に「自然科学系研究科共通科目」として「生命機能科学特論」を開講し

ている。

国際・地域マネジメントコース

本コースの教育課程は，国際的な農業・農村振興の視点から国内外の地域社会と連携した実践教育により，農業や地域産業の育成に関わる高度人材を養成することを目的とする。本コースにおいては，地域社会の基盤となるマネジメントに関する専門性と先端知識を養うために，(1) 国際・地域マネジメントの領域における先端の高度な専門知識，(2) 農学を基盤とした地域振興と国際協力に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力，(3) 専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力の習得，を教育目標とする。

教育目標１に関して，「選択科目」として，「農業経済学特論」，「農業ビジネスマネジメント特論」，「アジア比較農業特論」，「食料市場流通特論」，「国際・地域協同組合特論」，「地域農業オーガニゼーション特論」，「比較農政学特論」，「農村社会学特論」，「人間生態学特論」，「国際環境マネジメント特論」，「地域資源マネジメント特論」，「農村地理学特論」，「ルーラル・デベロップメント特論」，「生態人類学特論」，「アジア地誌特論」を開講している。また，国際・地域マネジメント分野における最先端，かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」が開講されている。

教育目標２に関して，学生同士が切磋琢磨する環境の中で，自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力，自立力等を磨く教育として，「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「国際・地域マネジメント演習Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標３に関して，１年次に「自然科学系研究科共通科目」として「国際・地域マネジメント特論」を開講している。

4 研究指導の方法

学生は，指導教員と良くコミュニケーションをとりながら，自主的な研究の遂行と関連分野の勉学に励む。修士課程で得られる研究成果については，関連する学会等での発表を目指すとともに，成果を取り纏めた修士論文を作成する。研究室においては，科学者倫理に留意しながら日々実験・調査・討議等を行い，安全な研究環境の維持に配慮する。

学生は，毎学期，ラーニングポートフォリオシステムにおいて，研究指導実施報告書による指導教員からの研究指導を受けた上，自身の研究活動について振り返り入力を行う必要がある。

1）研究テーマの設定と実施

修士課程における研究（特別研究）は，１，２年生を通じて行う。特別研究のテーマは，指導教員との綿密な検討，打ち合わせにより設定する。特別研究の遂行において必要な事項については，指導教員より指示される。研究室で行われる検討会や雑誌会などに積極的に参加するとともに，研究に関連する学内の諸施設・設備の案内・技術講習等にも適宜参加する。

2）研究成果の公表

研究成果については，関連する学会や研究会での発表，また学会誌への投稿を目指す。発表に関して必要なプレゼンテーションの手法，また論文作成の方法については，指導教員より教授される。

3）修士論文の作成と修士論文発表会

特別研究の成果を取り纏めた修士論文を作成する。その内容について，２年生終了時に修士論文発表会において発表する。修士論文発表会は，各コース単位で実施され，口頭発表で行う。なお，修士論文の審査教員から口頭試問による最終試験が行われる。

5 修士論文および最終試験の評価基準

1）修士論文

修士論文の評価は，主査（１名）及び副査（２名以上）教員が行う。各教員が100点満点（修士論文の内容50点，発表会の内容50点）で採点し，その平均点（小数点以下は切捨て）において，60点以上が合格である。

2）最終試験

最終試験の評価は，主査及び副査教員が行う。各教員が100点満点で採点し，その平均点（小数点以下は切捨て）において，60点以上が合格である。

3）論文評価基準

審査員は，修士論文等の審査に当たって修士論文等が属する専門分野において学術的意義を有していることを確認する。

6 修了要件と学位

修了要件は，本研究科に２年以上在学して60単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査及び最終試験に合格することである。

学位の種類は，修士（農学）である。

7 授業科目と履修方法

⑴ 授業科目

各コースの授業科目は，「Ⅲ授業科目，単位数及び開講年次」のとおりである。

⑵ 履修方法

① 大学院教養教育プログラム４単位以上，自然科学系研究科共通科目８単位以上及び専門科目のうち各コースに指定される必修科目（特別研究30単位を含む。）を含む48単位以上，計60単位以上を修得しなければならない。

② 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目のうち①にある要件を超えて修得した単位，指導教員が必要と認めて履修した他研究科の単位は，４単位を限度として各コースの専門選択科目の修了に要する単位に含めることができる。

所属コースの特別研究	30単位
大学院教養教育プログラム	４単位
自然科学系研究科共通科目	８単位
所属コースの専門科目	18単位
合　計	60単位以上

8 大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づく履修方法

(1) 特例の適用の対象となるものは，社会人学生である。

学生は，「授業科目，単位数及び開講年次」の内容に基づき，各自の在学期間を見通した履修計画を立てること。

(2) 履修計画は，指導教員の指導のもとで作成するものとする。

(3) 特例を適用する場合，課程修了に必要な60単位のうち42単位（特別研究30単位を含む。）以上は，通常の授業時間帯における履修によって修得しなければならないものとする。

(4) 社会人学生は特例に基づいて開設される授業の履修によって修得した単位のうち18単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる。

なお，社会人学生以外の学生で指導教員がその必要性を認めた者については，10単位を限度として，上記特例に基づいて開設される授業を履修して，課程修了に必要な単位数に算入できるものとする。

(5) 特例による夜間の授業時間は，次のとおりである。

第１時限　18：00～19：30

第２時限　19：40～21：10

9 履修手続について

授業科目を履修し，単位を修得するためには，次の手続を経なければならない。

・Ｗｅｂによる履修登録になるので，登録・修正期間，場所等は詳しくは掲示を見ること。

・講義に出席し，定期試験を受験し，あるいは，レポート等を提出して合格点に達すれば，所定の単位が与えられる。

10 相談等の連絡先

履修関係等

農学部教育委員：sodan-k@ml.cc.saga-u.ac.jp

学生生活関係等

農学部学生委員：sodan-g@ml.cc.saga-u.ac.jp

Ⅲ 授業科目，単位数及び開講年次

1 授業科目，単位数，開講年次

生物資源科学専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数		担当教員	2023年度				2024年度				備考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
		必修	選択		前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1			○				○				※必修科目を含め４単位以上選択必修
	情報セキュリティ特論	1			○				○				
	データサイエンス特論	1					○				○		
	学術英語特論		1		○	○			○	○			
	ダイバーシティ・人権教育特論		1										
	スポーツ科学特別演習		1		○	○	○	○	○	○	○	○	
	キャリアデザイン特論		1			○				○			
	多文化共生理解		1										
	地域連携キャリア研修		2				○						
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	2			○				○				
	創成科学PBL特論	2			○				○				集中
	知的財産特論	2					○				○		ネット
	理工学概論		1		○				○				
	医学・看護学概論		1			○				○			
	創成科学インターンシップS		1										集中
	創成科学インターンシップL		2										集中
	理工学特別講義		2		○		○		○		○		※必修科目を含め８単位以上選択必修
	数学概論		1				○				○		
	物理学概論		1				○				○		
	知能情報工学概論		1				○				○		
	材料化学特論		1				○				○		※生物科学特論は生物科学コース、食資源環境科学特論は食資源環境科学コース、生命機能科学特論は生命機能科学コース、国際・地域マネジメント特論は国際・地域マネジメントコースの必修
	機械工学概論		1				○				○		
	電気電子工学概論		1				○				○		
	都市工学通論		1				○				○		
	人体構造機能学概論		1			○				○			
	人体構造実習		1			○				○			
	看護理論		1										
	生物科学特論		1				○				○		
	食資源環境科学特論		1				○				○		
	生命機能科学特論		1					○				○	
	国際・地域マネジメント特論		1				○				○		
生物科学コース専門科目	熱帯農業資源学特論		1	鄭　紹輝	○				○				
	熱帯資源植物利用学特論		1	鄭　紹輝		○				○			
	熱帯作物改良学特論		1	藤田　大輔			○				○		
	熱帯作物生理学特論		1	藤田　大輔				○				○	
	動物発生学特論		1	山中　賢一			○				○		
	動物繁殖生理学特論		1	山中　賢一				○				○	
	蔬菜花卉園芸学特論		1	一色　司郎			○				○		
	園芸植物資源開発学特論		1	一色　司郎				○				○	

科目区分	授業科目の名称	単位数		担当教員	2023年度				2024年度				備考
		必修	選択		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
生物科学コース 専門科目	花卉園芸学特論		1	辻田 有紀	○				○				※必修科目を含め48単位以上選択必修
	植物ゲノム工学特論		1	渡邊 啓史			○				○		
	植物ゲノム情報科学特論		1	渡邊 啓史				○				○	
	植物ウイルス病学特論		1	(大島一里)									集中
	植物ウイルス学特論		1	(大島一里)									集中
	線虫学特論		1	吉賀 豊司	○				○				
	先端線虫科学特論		1	吉賀 豊司		○				○			
	動物行動生態学特論		1	徳田 誠			○						隔年開講
	動物行動学特論		1	徳田 誠				○					隔年開講
	家畜行動学特論		1	江原 史雄			○				○		
	家畜管理学特論		1	江原 史雄				○				○	
	作物生産学特論		1	(未 定)									集中
	作物生態学特論		1	(未 定)									集中
	生産生態学特論		1	上埜 喜八			○				○		
	循環型農業生産学特論		1	上埜 喜八				○				○	
	果樹園芸学特論		1	福田 伸二	○				○				
	果樹生産学特論		1	福田 伸二		○				○			
	施設園芸学特論		1	後藤 文之			○				○		
	施設環境生理学特論		1	後藤 文之				○				○	
	植物栄養生理学特論		1	西田 翔	○				○				
	植物分子栄養学特論		1	西田 翔		○				○			
	園芸利用学特論		1	松本 雄一									集中
	園芸植物繁殖学特論		1	松本 雄一									集中
	施設農業生産学特論		1	田中 宗浩	○				○				
	農地環境工学特論		1	近藤 文義		○				○			
	農地農水計画学特論		1	弓削こずえ			○				○		
	農用先端機械学特論		1	稲葉 繁樹				○				○	
	生物科学演習Ⅰ	2		コース全教員	○								
	生物科学演習Ⅱ	2		コース全教員			○						
	生物科学演習Ⅲ	2		コース全教員					○				
	生物科学演習Ⅳ	2		コース全教員							○		
	特別研究Ⅰ	5		コース全教員	○								
	特別研究Ⅱ	5		コース全教員			○						
	特別研究Ⅲ	10		コース全教員					○				
	特別研究Ⅳ	10		コース全教員							○		
食資源環境科学コース 専門科目	環境地盤学特論		1	近藤 文義	○				○				
	環境分析化学特論		1	上野 大介	○				○				
	環境情報工学特論		1	原口 智和	○				○				
	生産情報処理学特論		1	稲葉 繁樹	○				○				
	先端情報技術学特論		1	稲葉 繁樹		○				○			
	生産エンジニアリング特論		1	稲葉 繁樹			○				○		
	先端環境分析化学特論		1	上野 大介		○				○			
	水資源計画学特論		1	原口 智和		○				○			

科目区分	授業科目の名称	単位数		担当教員	2023年度				2024年度				備考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
		必修	選択		前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
食資源環境科学コース　専門科目	分光統計解析学特論		1	田中　宗浩		○				○			※必修科目を含め48単位以上選択必修
	土壌物理学特論		1	德本　家康	○				○				
	水環境工学特論		1	阿南　光政			○				○		
	生産地盤工学特論		1	宮本　英揮			○				○		
	浅海環境工学特論		1	郡山　益実			○				○		
	先端地水学特論		1	德本　家康		○				○			
	利水解析学特論		1	阿南　光政				○				○	
	応用水利学特論		1	弓削こずえ				○				○	
	土質工学特論		1	宮本　英揮				○				○	
	干潟生態環境学特論		1	郡山　益実				○				○	
	植物環境応答学特論		1	鈴木　章弘			○				○		
	応用植物生理学特論		1	鈴木　章弘				○				○	
	植物系統分類学特論		1	辻田　有紀		○				○			
	植物病原学特論		1	草場　基章	○				○				
	植物感染病学特論		1	草場　基章		○				○			
	昆虫分子生物学特論		1	（未　定）			○				○		
	先端昆虫分子生物学特論		1	（未　定）				○				○	
	システム生態学特論		1	徳田　誠							○		隔年開講
	進化生態学特論		1	徳田　誠								○	隔年開講
	動物資源開発学特論		1	（未　定）									
	農業気象学特論		1	（未　定）									
	食資源環境科学特別演習Ⅰ	2		コース全教員	○								
	食資源環境科学特別演習Ⅱ	2		コース全教員			○						
	食資源環境科学特別演習Ⅲ	2		コース全教員					○				
	食資源環境科学特別演習Ⅳ	2		コース全教員							○		
	特別研究Ⅰ	5		コース全教員	○								
	特別研究Ⅱ	5		コース全教員			○						
	特別研究Ⅲ	10		コース全教員					○				
	特別研究Ⅳ	10		コース全教員							○		
生命機能科学コース　専門科目	生化学特論		1	（未　定）	○				○				※必修科目を含め48単位以上選択必修
	構造生物学特論		1	堀谷　正樹	○				○				
	タンパク質科学特論		1	堀谷　正樹		○				○			
	微生物遺伝学特論		1	後藤　正利		○				○			
	真核微生物学特論		1	後藤　正利	○				○				
	応用微生物学特論		1	小林　元太	○				○				
	微生物学特論		1	小林　元太		○				○			
	植物プランクトン学特論		1	木村　圭	○				○				
	海藻学特論		1	木村　圭		○				○			
	バイオセンシング特論		1	宗　伸明	○				○				
	バイオ材料特論		1	宗　伸明		○				○			
	分子細胞生物学特論		1	永野　幸生	○				○				
	細胞情報学特論		1	永野　幸生		○				○			
	食品生化学特論		1	野間　誠司			○				○		

科目区分	授業科目の名称	単位数		担当教員	2023年度				2024年度				備考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
		必修	選択		前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
生命機能科学コース 専門科目	食糧流通貯蔵学特論		1	野間　誠司				○				○	
	海洋資源化学特論		1	濱　洋一郎			○				○		
	グリコバイオロジー特論		1	濱　洋一郎				○				○	
	バイオメンブレン機能特論		1	光武　進			○				○		
	食糧安全学特論		1	光武　進				○				○	
	分子栄養学特論		1	永尾　晃治			○				○		
	脂質生化学特論		1	永尾　晃治				○				○	※必修科目を含め48単位以上選択必修
	生命機能科学特別演習Ⅰ	2		コース全教員		○							
	生命機能科学特別演習Ⅱ	2		コース全教員				○					
	生命機能科学特別演習Ⅲ	2		コース全教員						○			
	生命機能科学特別演習Ⅳ	2		コース全教員								○	
	特別研究Ⅰ	5		コース全教員		○							
	特別研究Ⅱ	5		コース全教員				○					
	特別研究Ⅲ	10		コース全教員						○			
	特別研究Ⅳ	10		コース全教員								○	
国際・地域マネジメントコース 専門科目	農業経済学特論		1	辻　一成	○				○				
	農業ビジネスマネジメント特論		1	辻　一成		○				○			
	アジア比較農業特論		1	辻　一成									集中
	食料市場流通特論		1	(白武義治)									集中
	国際・地域協同組合特論		1	(白武義治)									集中
	地域農業オーガニゼーション特論		1	(小林恒夫)									集中
	比較農政学特論		1	(小林恒夫)									集中
	農村社会学特論		1	藤村　美穂			○				○		
	人間生態学特論		1	(稲岡　司)				○				○	
	国際環境マネジメント特論		1	(稲岡司),藤村美穂		○				○			※必修科目を含め48単位以上選択必修
	地域資源マネジメント特論		1	(五十嵐 勉)		○				○			
	農村地理学特論		1	(五十嵐 勉)	○				○				
	ルーラル・デベロップメント特論		1	藤村　美穂	○				○				
	生態人類学特論		1	中井　信介				○				○	
	アジア地誌特論		1	中井　信介									集中
	国際・地域マネジメント演習Ⅰ	2		コース全教員		○							
	国際・地域マネジメント演習Ⅱ	2		コース全教員				○					
	国際・地域マネジメント演習Ⅲ	2		コース全教員						○			
	国際・地域マネジメント演習Ⅳ	2		コース全教員								○	
	特別研究Ⅰ	5		コース全教員		○							
	特別研究Ⅱ	5		コース全教員				○					
	特別研究Ⅲ	10		コース全教員						○			
	特別研究Ⅳ	10		コース全教員								○	

外国人留学生特別科目

授業科目の名称	単位数	担当教員	2023年度				2024年度				備考
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		
			前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
アグロサイエンス特論	1	辻田　忠志	○				○				
アグロサイエンス特別演習	2	辻田　忠志	○				○				

国際人材育成科目

科目区分		授業科目の名称	単位数	担当教員	2023（奇数年）				2024（偶数年）				備考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
基礎必修科目		○Freshman Seminar（フレッシュマンセミナー）	1	指導教員	○				○				4科目6単位必修
		Survival Japanese・English（サバイバル日本語・英語）	1	辻田　忠志	○								
		○Field Study（フィールドスタディ）	2	指導教員	○集中				○集中				
		Summer Seminar（サマーセミナー）	2	指導教員	○集中				○集中				
専門選択必修科目	生物科学	Advanced Plant Physiology（植物生理学特論）	1	鈴木　章弘			○						4コースの各コースから1科目1単位以上，合計14単位を修得
		Advanced Technology for Sustainable Agriculture（持続農業技術特論）	1	上埜　喜八				○					
		Advanced Plant Metabolism（植物代謝学特論）	1	石丸　幹二		○							
		Advanced Vegetable Horticulture（野菜園芸特論）	1	一色　司郎	○								
		Advanced Floriculture（花卉園芸学特論）	1	辻田　有紀								○	
		Advanced Horticultural Physiology（園芸生理学特論）	1	古藤田信博			○						
		Advanced Tropical Plant Resources（熱帯植物資源学特論）	1	鄭　紹輝							○		
		Advanced Tropical Plant Improvement（熱帯植物改良学特論）	1	藤田　大輔					○				
		Advanced Reproductive Engineering（生殖工学特論）	1	山中　賢一							○		
		Advanced Mycology（菌学特論）	1	草場　基章		○							
		Advanced Nematode Science（線虫科学特論）	1	吉賀　豊司								○	
		Advanced Community Ecology（群集生態学特論）	1	徳田　誠					○				
		Advanced Plant Molecular Breeding（植物分子育種学特論）	1	渡邊　啓史	○								
		Advanced Fruit Tree Molecular Breeding（果樹分子育種学特論）	1	福田　伸二							○		
		Advanced Greenhouse Management（温室管理学特論）	1	後藤　文之					○				
		Advanced Plant Nutrition（植物栄養学特論）	1	西田　翔						○			
		Advanced Plant Propagation（園芸植物繁殖学特論）	1	松本　雄一		○							

※　○の科目については，秋季入学の場合は後学期にも開講される。

※　履修細則別表Ⅰに定める授業科目から創成科学インターンシップＬ２単位及び特別研究30単位，別表Ⅱに定める国際人材育成科目から基礎必修科目６単位，専門選択必修科目から14単位（４コースの各コースから１科目１単位以上を修得）及び特別演習８単位を含む，計60単位以上修得しなければならない。

科目区分		授業科目の名称	単位数	担当教員	2023（奇数年）				2024（偶数年）				備考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
専門選択必修科目	食資源環境科学	Advanced Environmental Soil Analysis（環境土壌解析学特論）	1	德本　家康							○		
		Advanced Shallow Sea Environment（浅海環境学特論）	1	郡山　益実	○								
		Advanced Rural and Environmental Engineering（農村環境工学特論）	1	弓削こずえ	○								
		Advanced Geoenvironmental Engineering（地盤環境工学特論）	1	近藤　文義							○		
		Advanced Environmental Soil Physics（環境土壌物理学特論）	1	宮本　英揮		○							
		Advanced Environmental Chemistry（環境化学特論）	1	上野　大介							○		
		Advanced Irrigation Engineering（灌漑工学特論）	1	原口　智和								○	
		Advanced Hydraulic Engineering（水理水文工学特論）	1	阿南　光政		○							
		Advanced Equipments for Agricultural Production（施設農業生産学特論）	1	田中　宗浩	○								
		Advanced Care of Microbial Fora（細菌叢ケア特論）	1	北垣　浩志						○			
		Advanced Agricultural Machinery and System（農業機械およびシステム工学特論）	1	稲葉　繁樹			○						
	生命機能科学	Advanced Applied Biochemistry（応用生物化学特論）	1	（未定）									
		Advanced Applied Chemistry（応用化学特論）	1	宗　伸明							○		
		Advanced Microbial Technology（微生物工学特論）	1	小林　元太				○					
		Advanced Oleo Science（オレオサイエンス特論）	1	永尾　晃治					○				
		Advanced Bioresource Chemistry（生物資源化学特論）	1	濱　洋一郎				○					
		Advanced Membrane Biology（膜生物学特論）	1	光武　進						○			
		Advanced Practical Genomics（実践ゲノム科学特論）	1	永野　幸生							○		
		Advanced Food Preservation Science（食品保蔵科学特論）	1	野間　誠司				○					
		Advanced Molecular Biology for Environmental Response（環境応答分子生物学特論）	1	辻田　忠志								○	
		Advanced Eukaryotic Microbiology（真核微生物学特論）	1	後藤　正利							○		
		Advanced Organic Chemistry（有機化学特論）	1	川口　真一						○			
		Advanced Chemical Biology（ケミカルバイオロジー特論）	1	川添　嘉徳				○					
		Advanced Enzyme Chemistry（酵素化学特論）	1	堀谷　正樹					○				

科目区分		授業科目の名称	単位数	担当教員	2023（奇数年）				2024（偶数年）				備考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
専門選択必修科目	国際・地域マネジメント	Advanced Agri-Food Marketing Studies（農産物マーケティング特論）	1	（未定）									
		Advanced Rural Tourism（農村観光特論）	1	（未定）							○		
		Advanced Human Ecology（人類生態学特論）	1	（未定）	○								
		Advanced Rural Sociology（農村社会学特論）	1	藤村　美穂		○							
		Advanced Insular Socio-Economics（島嶼社会経済学特論）	1	（未定）									
		Advanced Ecological Anthropology（生態人類学特論）	1	中井　信介			○						
		Advanced Farming Systems Research（ファーミングシステム研究特論）	1	辻　　一成						○			
		Special Seminar Ⅰ（特別演習Ⅰ）	2	指導教員	○								８単位必修
		Special Seminar Ⅱ（特別演習Ⅱ）	2	指導教員			○						
		Special Seminar Ⅲ（特別演習Ⅲ）	2	指導教員					○				
		Special Seminar Ⅳ（特別演習Ⅳ）	2	指導教員							○		

【生物科学コース】履修モデル

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">大学院教養教育
プログラム</th><th rowspan="2">自然科学系研究科
共通科目</th><th colspan="3">選　択　科　目</th><th rowspan="2">特別研究
（必修）</th><th rowspan="2">単位数</th></tr>
<tr><th>コース必修科目</th><th>コース選択科目</th><th>自由選択科目</th></tr>
<tr><td>２年秋学期B</td><td></td><td></td><td rowspan="2">生物科学演習Ⅳ</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">特別研究Ⅳ</td><td rowspan="10"></td></tr>
<tr><td>２年秋学期A</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>２年春学期B</td><td></td><td></td><td rowspan="2">生物科学演習Ⅲ</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">特別研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>２年春学期A</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>１年秋学期B</td><td></td><td>知的財産特論（ネット）
生命機能科学特論</td><td rowspan="2">生物科学演習Ⅱ</td><td>熱帯作物生理学特論
動物繁殖生理学特論
園芸植物資源開発学特論
循環型農業生産学特論
施設環境生理学特論</td><td></td><td>特別研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>１年秋学期A</td><td>データサイエンス特論</td><td>知的財産特論（ネット）
生物科学特論
食資源環境科学特論
国際・地域マネジメント特論</td><td>熱帯作物改良学特論
動物発生学特論
蔬菜花卉園芸学特論
生産生態学特論
施設園芸学特論</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>１年春学期B</td><td></td><td>創成科学融合特論
創成科学PBL特論（集中）</td><td rowspan="2">生物科学演習Ⅰ</td><td>熱帯資源植物利用学特論
先端線虫科学特論
果樹生産学特論
植物分子栄養学特論</td><td></td><td>特別研究Ⅰ</td></tr>
<tr><td>１年春学期A</td><td>研究・職業倫理特論
情報セキュリティ特論
学術英語特論</td><td>創成科学融合特論
創成科学PBL特論（集中）</td><td>熱帯農業資源学特論
花卉園芸学特論
線虫学特論
果樹園芸学特論
植物栄養生理学特論</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>修了要件単位数</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td>10</td><td></td><td>30</td><td>60</td></tr>
</table>

【食資源環境科学コース】履修モデル

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">大学院教養教育
プログラム</th><th rowspan="2">自然科学系研究科
共通科目</th><th colspan="3">選　択　科　目</th><th rowspan="2">特別研究
（必修）</th><th rowspan="2">単位数</th></tr>
<tr><th>コース必修科目</th><th>コース選択科目</th><th>自由選択科目</th></tr>
<tr><td>２年秋学期B</td><td></td><td></td><td rowspan="2">食資源環境科学
特別演習Ⅳ</td><td></td><td></td><td rowspan="2">特別研究Ⅳ</td><td rowspan="8"></td></tr>
<tr><td>２年秋学期A</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>２年春学期B</td><td></td><td></td><td rowspan="2">食資源環境科学
特別演習Ⅲ</td><td></td><td></td><td rowspan="2">特別研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>２年春学期A</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>１年秋学期B</td><td></td><td>知的財産特論（ネット）
生命機能科学特論</td><td rowspan="2">食資源環境科学
特別演習Ⅱ</td><td>先端地水学特論
利水解析学特論
応用水利学特論
土質工学特論
干潟生態環境学特論</td><td>農用先端機械学特論</td><td rowspan="2">特別研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>１年秋学期A</td><td>データサイエンス特論</td><td>知的財産特論（ネット）
生物科学特論
食資源環境科学特論
国際・地域マネジメント特論</td><td>生産エンジニアリング特論
土壌物理学特論
水環境工学特論
生産地盤工学特論
浅海環境工学特論</td><td>農地農水計画学特論</td></tr>
<tr><td>１年春学期B</td><td></td><td>創成科学融合特論
創成科学PBL特論（集中）</td><td rowspan="2">食資源環境科学
特別演習Ⅰ</td><td>先端情報技術学特論
先端環境分析化学特論
水資源計画学特論
分光統計解析学特論</td><td>創成科学インターンシップS
農地環境工学特論</td><td rowspan="2">特別研究Ⅰ</td></tr>
<tr><td>１年春学期A</td><td>研究・職業倫理特論
情報セキュリティ特論
学術英語特論</td><td>創成科学融合特論
創成科学PBL特論（集中）</td><td>環境地盤学特論
環境分析化学特論
環境情報工学特論
生産情報処理学特論
農業気象学特論</td><td>施設農業生産学特論</td></tr>
<tr><td>修了要件単位数</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>1</td><td>30</td><td>60</td></tr>
</table>

【生命機能科学コース】履修モデル

	大学院教養教育プログラム	自然科学系研究科共通科目	選択科目			特別研究（必修）	単位数
			コース必修科目	コース選択科目	自由選択科目		
２年秋学期B			生命機能科学特別演習Ⅳ			特別研究Ⅳ	
２年秋学期A							
２年春学期B			生命機能科学特別演習Ⅲ			特別研究Ⅲ	
２年春学期A							
１年秋学期B		知的財産特論（ネット） 生命機能科学特論	生命機能科学特別演習Ⅱ	食糧流通貯蔵学特論 グリコバイオロジー特論 脂質生化学特論		特別研究Ⅱ	
１年秋学期A	データサイエンス特論	知的財産特論（ネット） 生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論		食品生化学特論 海洋資源化学特論 分子栄養学特論			
１年春学期B		創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）	生命機能科学特別演習Ⅰ	微生物遺伝学特論 微生物学特論 海藻学特論 バイオ材料特論		特別研究Ⅰ	
１年春学期A	研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論	創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		真核微生物学特論 応用微生物学特論 植物プランクトン学特論 バイオセンシング特論			
修了要件単位数	4	8	8	10		30	60

【国際・地域マネジメントコース】履修モデル

	大学院教養教育プログラム	自然科学系研究科共通科目	選択科目			特別研究（必修）	単位数
			コース必修科目	コース選択科目	自由選択科目		
２年秋学期B			国際・地域マネジメント演習Ⅳ			特別研究Ⅳ	
２年秋学期A							
２年春学期B			国際・地域マネジメント演習Ⅲ			特別研究Ⅲ	
２年春学期A							
１年秋学期B		知的財産特論（ネット） 生命機能科学特論	国際・地域マネジメント演習Ⅱ	生態人類学特論		特別研究Ⅱ	
１年秋学期A	データサイエンス特論	知的財産特論（ネット） 生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論		農村社会学特論			
１年春学期B		創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）	国際・地域マネジメント演習Ⅰ	農業ビジネスマネジメント特論 地域農業オーガニゼーション特論 国際環境マネジメント特論		特別研究Ⅰ	
１年春学期A	研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論	創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		農業経済学特論 国際・地域共同組合特論 農業地理学特論			
修了要件単位数	4	8	8	10		30	60

【生物科学コース】カリキュラムマップ

学位授与の方針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において，先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに，科学的思考力と洞察力を養い，専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得単位数
２年秋期Ｂ	特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ		5
		生物科学演習Ⅳ		
２年秋期Ａ	特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ		5
		生物科学演習Ⅳ		
２年春期Ｂ	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ		5
		生物科学演習Ⅲ		
２年春期Ａ	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ		5
		生物科学演習Ⅲ		
１年秋期Ｂ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	生命機能科学特論	10
	熱帯作物生理学特論	生物科学演習Ⅱ		
	動物繁殖生理学特論			
	園芸植物資源開発学特論			
	植物ゲノム情報科学特論			
	植物ウイルス学特論			
	家畜管理学特論			
	農用先端機械学特論			
	施設環境生理学特論			
１年秋期Ａ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	生物科学特論	10
	熱帯作物改良学特論	生物科学演習Ⅱ	食資源環境科学特論	
	動物発生学特論		国際・地域マネジメント特論	
	蔬菜花卉園芸学特論			
	植物ゲノム工学特論			
	植物ウイルス病学特論			
	家畜行動学特論			
	農地農水計画学特論			
	施設園芸学特論			
１年春期Ｂ	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	創成科学融合特論	10
	熱帯資源植物利用学特論	生物科学演習Ⅰ	創成科学PBL特論	
	先端線虫科学特論			
	果樹生産学特論			
	農地環境工学特論			
	植物分子栄養学特論			
１年春期Ａ	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	研究・職業倫理特論	10
	熱帯農業資源学特論	生物科学演習Ⅰ	情報セキュリティ特論	
	花卉園芸学特論		学術英語特論	
	線虫学特論		創成科学融合特論	
	果樹園芸学特論		創成科学PBL特論	
	施設農業生産学特論			
	植物栄養生理学特論			

【食資源環境科学コース】カリキュラムマップ

学位授与の方針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において，先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに，科学的思考力と洞察力を養い，専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得単位数
２年秋期Ｂ		特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅳ	食資源環境科学特別演習Ⅳ	
			創成科学インターンシップS	
２年秋期Ａ		特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅳ	食資源環境科学特別演習Ⅳ	
			創成科学インターンシップS	
２年春期Ｂ		特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅲ	食資源環境科学特別演習Ⅲ	
			創成科学インターンシップS	
２年春期Ａ		特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅲ	食資源環境科学特別演習Ⅲ	
			創成科学インターンシップS	
１年秋期Ｂ	知的財産特論	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	10
		食資源環境科学特別演習Ⅱ	食資源環境科学特別演習Ⅱ	
		先端地水学特論	創成科学インターンシップS	
		利水解析学特論		
		応用水利学特論		
		土質工学特論		
		干潟生態環境学特論		
１年秋期Ａ	データサイエンス特論	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	10
	ダイバーシティ・人権教育特論	食資源環境科学特別演習Ⅱ	食資源環境科学特別演習Ⅱ	
	知的財産特論	生産エンジニアリング特論	創成科学インターンシップS	
	食資源環境科学特論	土壌物理学特論		
		水環境工学特論		
		生産地盤工学特論		
		浅海環境工学特論		
１年春期Ｂ	創成科学融合特論	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	10
	創成科学PBL特論	食資源環境科学特別演習Ⅰ	食資源環境科学特別演習Ⅰ	
		先端情報技術学特論	創成科学インターンシップS	
		先端環境分析化学特論		
		水資源計画学特論		
		分光統計解析学特論		
１年春期Ａ	研究・職業倫理特論	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	10
	情報セキュリティ特論	食資源環境科学特別演習Ⅰ	食資源環境科学特別演習Ⅰ	
	創成科学融合特論	環境地盤学特論	創成科学インターンシップS	
	創成科学PBL特論	環境分析化学特論		
		環境情報工学特論		
		生産情報処理学特論		
		農業気象学特論		

【生命機能科学コース】カリキュラムマップ

学位授与の方針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において，先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに，科学的思考力と洞察力を養い，専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得単位数
2年秋期B	特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ		5
	生命機能科学特別演習Ⅱ	生命機能科学特別演習Ⅳ		
2年秋期A	特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ		5
	生命機能科学特別演習Ⅱ	生命機能科学特別演習Ⅳ		
2年春期B	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ		5
	生命機能科学特別演習Ⅱ	生命機能科学特別演習Ⅲ		
2年春期A	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ		5
	生命機能科学特別演習Ⅱ	生命機能科学特別演習Ⅲ		
1年秋期B	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	知的財産特論	10
	生命機能科学特別演習Ⅰ	生命機能科学特別演習Ⅱ	生命機能科学特論	
	食糧流通貯蔵学特論			
	グリコバイオロジー特論			
	脂質生化学特論			
1年秋期A	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	生物科学特論	10
	生命機能科学特別演習Ⅰ	生命機能科学特別演習Ⅱ	食資源環境科学特論	
	食品生化学特論		国際・地域マネジメント特論	
	海洋資源化学特論		データサイエンス特論	
	分子栄養学特論		知的財産特論	
1年春期B	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	創成科学融合特論	10
	生命機能科学特別演習Ⅰ	生命機能科学特別演習Ⅰ	創成科学PBL特論	
	微生物遺伝学特論			
	微生物学特論			
	海藻学特論			
	バイオ材料特論			
1年春期A	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	創成科学融合特論	10
	生命機能科学特別演習Ⅰ	生命機能科学特別演習Ⅰ	創成科学PBL特論	
	真核微生物学特論		研究・職業倫理特論	
	応用微生物学特論		情報セキュリティ特論	
	植物プランクトン学特論		学術英語特論	
	バイオセンシング特論			

【国際・地域マネジメントコース】カリキュラムマップ

学位授与の方針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において，先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに，科学的思考力と洞察力を養い，専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得単位数
2年秋期B		特別研究Ⅳ		5
		国際・地域マネジメント演習Ⅳ		
2年秋期A		特別研究Ⅳ		5
		国際・地域マネジメント演習Ⅳ		
2年春期B		特別研究Ⅲ		5
		国際・地域マネジメント演習Ⅲ		
2年春期A		特別研究Ⅲ		5
		国際・地域マネジメント演習Ⅲ		
1年秋期B	生態人類学特論	特別研究Ⅱ	生命機能科学特論	10
	人間生態学特論	国際・地域マネジメント演習Ⅱ		
1年秋期A	食料市場流通特論	特別研究Ⅱ	国際・地域マネジメント特論	10
	農村社会学特論	国際・地域マネジメント演習Ⅱ	食資源環境科学特論	
	比較農政学特論		生物科学特論	
			データサイエンス特論	
1年春期B	農業ビジネスマネジメント特論	特別研究Ⅰ	創成科学融合特論	10
	地域農業オーガニゼーション特論	国際・地域マネジメント演習Ⅰ	創成科学PBL特論	
	国際環境マネジメント特論			
	アジア比較農業特論			
1年春期A	農業経済学特論	特別研究Ⅰ	創成科学融合特論	10
	国際・地域共同組合特論	国際・地域マネジメント演習Ⅰ	創成科学PBL特論	
	農業地理学特論			
	ルーラル・ディベロップメント特論			

Ⅳ 佐賀大学大学院農学研究科規則

（趣　　旨）

第１条　佐賀大学大学院農学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項は，国立大学法人 佐賀大学基本規則（平成16年４月１日制定），佐賀大学大学院学則（平成16年４月１日制定。以下「大学院学則」という。）及び佐賀大学学位規則（平成16年４月１日制定。以下「学位規則」という。）に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

（研究科の目的）

第１条の２　研究科は，地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力，高い倫理意識及び国際的視野を有し，多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し，活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成することを目的とする。

（専攻及びコース）

第２条　研究科に次の専攻及びコースを置く。

専　攻　名	コ　ー　ス　名
生物資源科学専攻	生物科学コース，食資源環境科学コース，生命機能科学コース，国際・地域マネジメントコース

２　専攻の目的は，各コースにおいて次に掲げるとおりとする。

(1)　生物科学コース　生物科学の領域における先端の高度な専門知識を有し，生物資源の生産と制御に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。

(2)　食資源環境科学コース　食資源環境科学の領域における先端の高度な専門知識を有し，農業生産や環境に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。

(3)　生命機能科学コース　生命機能科学の領域における先端の高度な専門知識を有し，食料や健康に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。

(4)　国際・地域マネジメントコース　国際・地域マネジメントの領域における先端の高度な専門知識を有し，農学を基盤とした地域振興と国際協力に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。

（指導教員）

第３条　学生の専攻分野の研究を指導するため，学生ごとに主指導教員１人及び副指導教員２人を置く。

（授業科目，単位数及び履修方法）

第４条　授業科目，単位数及び履修方法は，佐賀大学大学院農学研究科履修細則（平成16年４月１日制定）に定めるところによる。

２　教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（他の大学院等における授業科目の履修）

第５条　学生は，大学院学則第14条の規定に基づき，他の大学院及び外国の大学院の授業科目を履修することができる。

２　指導教員は，研究指導上必要があると認めるときは，学生が他コース及び他の研究科の授業科目を履修することを認めることができる。

（入学前の既修得単位の認定）

第６条　研究科が必要と認めたときは，大学院学則第15条の規定に基づき，学生が大学院に入学する前に大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を，大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（他の大学院等における研究指導）

第７条　学生は，大学院学則第17条の規定に基づき，他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）において，必要な研究指導を受けることができる。ただし，当該研究指導を受ける期間は１年を超えないものとする。

２　指導教員は，研究指導上必要があると認めるときは，学生が他の研究科において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし，当該研究指導を受ける期間は１年を超えないものとする。

（履修手続）

第８条　履修しようとする授業科目については，各学期とも所定の期間に定められた方法により履修手続をしなければならない。ただし，学期の中途から開始される授業科目については，その都度履修手続をしなければならない。

（成績判定及び単位の授与）

第８条の２　授業科目を履修した場合には，成績判定の上，合格した者に対して所定の単位を与える。

２　成績判定は，平素の学修状況，学修報告，論文及び試験等によって行う。

３　成績は，秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし，秀・優・良・可を合格とし，不可は不合格とする。

４　前項の規定にかかわらず，成績の判定に当たり，前項に規定する評語により難いと佐賀大学教育委員会が認めた授業科目においては，合又は不可の評語をもって表すことができるものとし，合を合格とし，不可は不合格とする。

（試　　験）

第９条　試験は，授業科目の履修期間終了時に，当該授業科目の担当教員が行う。

（学位論文の提出）

第10条　学位規則第７条第１項の規定により，修士の学位の授与を受けようとする者は，申請書類とともに，学位論文を指定した期日までに研究科長に提出しなければならない。

（学位論文審査員）

第11条　佐賀大学大学院農学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）は，修士論文の審査のため，研究科の教員及び他の研究科の教員の中から３人以上の学位論文審査員（以下「審査員」という。）を選出するものとする。

２　前項の審査員のうち，１人を主査とし，研究科の教員のうちから選出しなければならない。

３　第１項の規定にかかわらず，学位論文の審査に当たって必要があるときは，研究科委員会の議を経て，他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）の教員等を審査員に加えることができる。

（在学期間の短縮）

第11条の２　研究科は，第６条の規定により当該研究科に入学する前に修得した単位（学校教育法第102条第１項の規定により入学資格を有した後，修得したものに限る。）を当該研究科において修得したものとみなす場合であって，当該単位の修得により当該研究科の教育課程の一部を履修したと認めるときは，当該単位数，その修得に要した期間その他を勘案して１年を超えない範囲で当該研究科が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし，この場合においても，当該課程に少なくとも１年以上在学するものとする。

（入学者の選考）

第12条　入学者の選考は，その志望する専攻を修めるために必要な学力及び能力について行う。

（研究生及び科目等履修生）

第13条　研究科の教育研究に支障のないときは，研究科委員会の議を経て，研究生及び科目等履修生の入学を認めることができる。

２　研究生及び科目等履修生として入学できる者は，次の各号のいずれかに該当するものとする。

(1)　学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者

(2)　研究科委員会において前号と同等以上の学力があると認められた者

（特別研究学生）

第14条　研究科は，他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき，他の大学院等の学生が特別研究学生として研究指導を受けることを認めることができる。

（特別聴講学生）

第15条　研究科は，他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき，他の大学院等の学生が特別聴講学生として授業科目を履修することを認めることができる。

（転入学又は再入学を許可された者の既修得単位等の認定）

第16条　研究科に転入学又は再入学を許可された者が，佐賀大学の大学院又は他の大学院（外国の大学院を含む。）で既に修得した単位数及び在学した期間は，研究科委員会の議を経て通算することができる。

（雑　　則）

第17条　この規則に定めるもののほか，研究科に関し，必要な事項は，研究科委員会において定める。

附　則

この規則は，平成16年４月１日から施行する。

附　則（平成19年２月16日改正）

この規則は，平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成19年７月20日改正）

1　この規則は，平成19年７月20日から施行し，平成19年４月１日から適用する。

2　平成19年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成22年３月19日改正）

1　この規則は，平成22年４月１日から施行する。

2　平成22年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成22年11月24日改正）

この規則は，平成22年11月24日から施行する。

附　則（平成27年３月25日改正）

この規則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則（平成27年12月２日改正）

この規則は，平成28年４月１日から施行する。

附　則（平成30年３月28日改正）

この規則は，平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成31年２月27日改正）

1　この規則は，平成31年４月１日から施行する。

2　平成31年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（令和２年10月28日改正）

この規則は，令和２年10月28日から施行する。

附　則（令和４年３月30日改正）

この規則は，令和４年４月１日から施行する。

Ⅴ 佐賀大学大学院農学研究科履修細則

（趣　　旨）

第１条　佐賀大学大学院農学研究科規則（平成１６年４月１日制定。以下「研究科規則」という。）第４条の規定に基づく佐賀大学大学院農学研究科の授業科目，単位数及び履修方法は，この細則の定めるところによる。

（授業科目，単位数及び履修方法）

第２条　授業科目及び単位数は，別表Ⅰから別表Ⅲまでに定めるとおりとする。

２　専攻に，地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決できる国際的で高度な職業人を育成するため，教育研究指導を英語で行う国際人材育成プログラムを設ける。

３　学生（外国人留学生を含み，国際人材育成プログラムの学生を除く。）は，別表Ⅰに定める大学院教養教育プログラム４単位以上，自然科学系研究科共通科目８単位以上及び専門科目のうち各コースに指定される必修科目（特別研究30単位を含む。）を含む48単位以上，計60単位以上修得しなければならない。ただし，外国人留学生については，別表Ⅲに定める授業科目の単位を修了に要する単位に含めることができる。

４　国際人材育成プログラムの学生は，別表Ⅰに定める授業科目から創成科学インターンシップＬ２単位及び特別研究30単位，別表Ⅱに定める国際人材育成科目から基礎必修科目６単位，専門選択必修科目から14単位（４コースの各コースから１科目１単位以上を修得）及び特別演習Ⅰ～Ⅳ８単位を含む，計60単位以上修得しなければならない。ただし，別表Ⅰに定める科目のうち本文に規定する授業科目以外の授業科目並びに他研究科の授業科目を履修し，単位を修得した場合は，８単位を限度として専門選択必修科目により修得すべき修了に要する単位に含めることができる。

５　各コースの専門科目における（特別）演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ及びⅣは，順次１科目を履修するものとするが，順番どおりでなくても構わない。

　但し，同時に複数の（特別）演習を履修することはできない。

６　各コースの専門科目における特別研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ及びⅣは，順次１科目を履修するものとするが，順番どおりでなくても構わない。

　但し，同時に複数の特別研究を履修することはできない。

（単位認定）

第３条　大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目から前条に規定する要件を超えて修得した単位，研究科規則第５条の規定により指導教員が必要と認めて履修した他研究科の単位は，４単位を限度として，修了に要する単位に含めることができる。

　また，研究科規則第５条の規定により指導教員が必要と認めて履修した他コースの単位については，修了に要する単位に含めることができる。

２　研究科規定第５条の規定により，他大学院（外国の大学院を含む。）の授業科目の単位は，15単位を限度として修了に要する単位に含めることができる。

3　研究科規則第６条の規定により修得した授業科目の単位は，15単位を限度として修了に要する単位に含めることができる。

ただし，前項により認められた単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

4　前３項の規定は，国際人材育成プログラムの学生には適用しない。

附　則

この細則は，平成16年４月１日から施行する。

附　則

この細則は，平成16年10月１日から施行する。

附　則

この細則は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

1　この細則は，平成19年４月１日から施行する。

2　平成19年３月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年４月１日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則

この細則は，平成19年10月１日から施行する。

附　則

1　この細則は，平成22年４月１日から施行する。

2　平成22年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成24年１月25日改正）

1　この細則は，平成24年４月１日から施行する。

2　平成24年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年４月１日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成26年１月22日改正）

1　この細則は，平成26年４月１日から施行する。

2　平成26年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成26年４月１日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成27年１月21日改正）

1　この細則は，平成27年４月１日から施行する。

2　平成27年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成27年３月５日改正）

1　この細則は，平成27年４月１日から施行する。

2　平成27年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成28年３月４日改正）

1　この細則は，平成28年３月４日から施行する。

2　平成28年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成28年３月20日改正）

1　この細則は，平成28年４月１日から施行する。

2　平成28年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成29年２月８日改正）

1　この細則は，平成29年４月１日から施行する。

2　平成29年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成29年３月21日改正）

1　この細則は，平成29年４月１日から施行する。

2　平成29年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成30年２月14日改正）

1　この細則は，平成30年４月１日から施行する。

2　平成30年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成31年３月７日改正）

1　この細則は，平成31年４月１日から施行する。

2　平成31年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（令和３年３月５日改正）

1　この細則は，令和３年４月１日から施行する。

2　令和３年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

ただし，改正後の別表Ｉにおける大学院教養プログラム「スポーツ科学特別演習」については，この限りでない。

附　則（令和３年３月19日改正）

この細則は，令和３年４月１日から施行する。

附　則（令和３年７月14日改正）

この細則は，令和３年７月14日から施行し，令和３年４月１日から適用する。

附　則（令和３年９月８日改正）

この細則は，令和３年９月８日から施行し，令和３年４月１日から適用する。

附　則（令和４年１月12日改正）

1　この細則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和４年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

ただし，別表Ⅳにおける「農業技術経営管理学コース（副コース）」の科目については，この限りでない。

附　則（令和４年３月19日改正）

1　この細則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和４年４月１日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（令和５年１月11日改正）

1　この細則は，令和５年４月１日から施行する。

2　令和５年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学または再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（令和５年３月３日改正）

1　この細則は，令和５年４月１日から施行する。

2　令和５年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学または再入学する者については，なお従前の例による。

別表Ⅰ（第２条関係）

生物資源科学専攻

科目区分	コース名	授業科目	単位数	備考
大学院教養教育プログラム		★研究・職業倫理特論 ★情報セキュリティ特論 ★データサイエンス特論 学術英語特論 ダイバーシティ・人権教育特論 スポーツ科学特別演習 キャリアデザイン特論 多文化共生理解 地域連携キャリア研修	1 1 1 1 1 1 1 1 2	★を付した授業科目を含め４単位以上選択必修
自然科学系研究科共通科目		★創成科学融合特論 ★創成科学PBL特論 ★知的財産特論 理工学概論 医学・看護学概論 創成科学インターンシップS 創成科学インターンシップL 理工学特別講義 数学概論 物理学概論 知能情報工学概論 材料化学特論 機械工学概論 電気電子工学概論 都市工学通論 人体構造機能学概論 人体構造実習 看護理論 ☆生物科学特論 ☆食資源環境科学特論 ☆生命機能科学特論 ☆国際・地域マネジメント特論	2 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	★を付した授業科目を含め８単位以上選択必修 ☆生物科学特論は、生物科学コース必修 ☆食資源環境科学特論は、食資源環境科学コース必修 ☆生命機能科学特論は、生命機能科学コース必修 ☆国際・地域マネジメント特論は、国際・地域マネジメントコース必修
専門科目	生物科学	熱帯農業資源学特論 熱帯資源植物利用学特論 熱帯作物改良学特論 熱帯作物生理学特論 動物発生学特論 動物繁殖生理学特論 蔬菜花卉園芸学特論 園芸植物資源開発学特論 花卉園芸学特論 植物ゲノム工学特論 植物ゲノム情報科学特論 植物ウイルス病学特論 植物ウイルス学特論 線虫学特論 先端線虫科学特論 動物行動生態学特論 動物行動学特論 家畜行動学特論 家畜管理学特論 作物生産学特論 作物生態学特論 生産生態学特論	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修

専　門　科　目	生物科学	循環型農業生産学特論	1	
		果樹園芸学特論	1	
		果樹生産学特論	1	
		施設園芸学特論	1	
		施設環境生理学特論	1	
		植物栄養生理学特論	1	
		植物分子栄養学特論	1	
		園芸利用学特論	1	
		園芸植物繁殖学特論	1	
		施設農業生産学特論	1	
		農地環境工学特論	1	
		農地農水計画学特論	1	
		農用先端機械学特論	1	
		★生物科学演習Ⅰ	2	
		★生物科学演習Ⅱ	2	
		★生物科学演習Ⅲ	2	
		★生物科学演習Ⅳ	2	
		★特別研究Ⅰ	5	
		★特別研究Ⅱ	5	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	
	食資源環境科学	環境地盤学特論	1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修
		環境分析化学特論	1	
		先端環境分析化学特論	1	
		環境情報工学特論	1	
		水資源計画学特論	1	
		生産情報処理学特論	1	
		先端情報技術学特論	1	
		生産エンジニアリング特論	1	
		分光統計解析学特論	1	
		土壌物理学特論	1	
		先端地水学特論	1	
		水環境工学特論	1	
		利水解析学特論	1	
		生産地盤工学特論	1	
		土質工学特論	1	
		浅海環境工学特論	1	
		干潟生態環境学特論	1	
		応用水利学特論	1	
		植物環境応答学特論	1	
		応用植物生理学特論	1	
		植物系統分類学特論	1	
		植物病原学特論	1	
		植物感染病学特論	1	
		昆虫分子生物学特論	1	
		先端昆虫分子生物学特論	1	
		システム生態学特論	1	
		進化生態学特論	1	
		動物資源開発学特論	1	
		農業気象学特論	1	
		★食資源環境科学特別演習Ⅰ	2	
		★食資源環境科学特別演習Ⅱ	2	
		★食資源環境科学特別演習Ⅲ	2	
		★食資源環境科学特別演習Ⅳ	2	
		★特別研究Ⅰ	5	
		★特別研究Ⅱ	5	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	

専　門　科　目	生命機能科学	生化学特論	1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修
		構造生物学特論	1	
		タンパク質科学特論	1	
		微生物遺伝学特論	1	
		真核微生物学特論	1	
		応用微生物学特論	1	
		微生物学特論	1	
		植物プランクトン学特論	1	
		海藻学特論	1	
		バイオセンシング特論	1	
		バイオ材料特論	1	
		分子細胞生物学特論	1	
		細胞情報学特論	1	
		食品生化学特論	1	
		食糧流通貯蔵学特論	1	
		海洋資源化学特論	1	
		グリコバイオロジー特論	1	
		バイオメンブレン機能特論	1	
		食糧安全学特論	1	
		分子栄養学特論	1	
		脂質生化学特論	1	
		★生命機能科学特別演習Ⅰ	2	
		★生命機能科学特別演習Ⅱ	2	
		★生命機能科学特別演習Ⅲ	2	
		★生命機能科学特別演習Ⅳ	2	
		★特別研究Ⅰ	5	
		★特別研究Ⅱ	5	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	
	国際・地域マネジメント	農業経済学特論	1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修
		農業ビジネスマネジメント特論	1	
		アジア比較農業特論	1	
		食料市場流通特論	1	
		国際・地域協同組合特論	1	
		地域農業オーガニゼーション特論	1	
		比較農政学特論	1	
		農村社会学特論	1	
		ルーラル・デベロップメント特論	1	
		人間生態学特論	1	
		国際環境マネジメント特論	1	
		地域資源マネジメント特論	1	
		農村地理学特論	1	
		生態人類学特論	1	
		アジア地誌特論	1	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅰ	2	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅱ	2	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅲ	2	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅳ	2	
		★特別研究Ⅰ	5	
		★特別研究Ⅱ	5	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	

別表Ⅱ（第２条関係）

国際人材育成科目

科目区分	コース名	授　業　科　目	単位数	備　考
基礎必修科目		Freshman Seminar （フレッシュマンセミナー）	1	４科目６単位必修
		Survival Japanese・English （サバイバル日本語・英語）	1	
		Field Study （フィールドスタディ）	2	
		Summer Seminar （サマーセミナー）	2	
専門選択必修科目	生物科学	Advanced Plant Physiology （植物生理学特論）	1	４コースの各コースから１科目１単位以上，合計12単位を修得
		Advanced Technology for Sustainable Agriculture （持続農業技術特論）	1	
		Advanced Plant Metabolism （植物代謝学特論）	1	
		Advanced Vegetable Horticulture （野菜園芸特論）	1	
		Advanced Floriculture （花卉園芸学特論）	1	
		Advanced Horticultural Physiology （園芸生理学特論）	1	
		Advanced Tropical Plant Resources （熱帯植物資源学特論）	1	
		Advanced Tropical Plant Improvement （熱帯植物改良学特論）	1	
		Advanced Reproductive Engineering （生殖工学特論）	1	
		Advanced Mycology （菌学特論）	1	
		Advanced in Plant Virus Evolution （植物ウイルス進化学特論）	1	
		Advanced Nematode Science （線虫科学特論）	1	
		Advanced Community Ecology （群集生態学特論）	1	
		Advanced Plant Molecular Breeding （植物分子育種学特論）	1	
		Advanced Fruit Tree Molecular Breeding （果樹分子育種学特論）	1	
		Advanced Greenhouse Management （温室管理学特論）	1	
		Advanced Plant Nutrition （植物栄養学特論）	1	
		Advanced Plant Propagation （園芸植物繁殖学特論）	1	

科目区分	コース名	授　業　科　目	単位数	備　考
専門選択必修科目	食資源環境科学	Advanced Environmental Soil Analysis （環境土壌解析学特論）	1	
		Advanced Shallow Sea Environment （浅海環境学特論）	1	
		Advanced Rural and Environmental Engineering （農村環境工学特論）	1	
		Advanced Geoenvironmental Engineering （地盤環境工学特論）	1	
		Advanced Environmental Soil Physics （環境土壌物理学特論）	1	
		Advanced Environmental Chemistry （環境化学特論）	1	
		Advanced Irrigation Engineering （灌漑工学特論）	1	
		Advanced Hydraulic Engineering (水理水文工学特論)	1	
		Advanced Equipments for Agricultural Production （施設農業生産学特論）	1	
		Advanced Care of Microbial Flora （細菌叢ケア学特論）	1	
		Advanced Agricultural Machinery and System （農業機械およびシステム工学特論）	1	
	生命機能科学	Advanced Applied Biochemistry （応用生物化学特論）	1	
		Advanced Applied Chemistry （応用化学特論）	1	
		Advanced Microbial Technology （微生物工学特論）	1	
		Advanced Oleo Science （オレオサイエンス特論）	1	
		Advanced Bioresource Chemistry （生物資源化学特論）	1	
		Advanced Membrane Biology （膜生物学特論）	1	
		Advanced Practical Genomics （実践ゲノム科学特論）	1	
		Advanced Food Preservation Science （食品保蔵科学特論）	1	
		Advanced Molecular Biology for Environmental Response （環境応答分子生物学特論）	1	
		Advanced Eukaryotic Microbiology （真核微生物学特論）	1	
		Advanced Organic Chemistry （有機化学特論）	1	
		Advanced Chemical Biology （ケミカルバイオロジー特論）	1	
		Advanced Enzyme Chemistry （酵素化学特論）	1	
	国際・地域マネジメント	Advanced Agri-Food Marketing Studies （農産物マーケティング特論）	1	
		Advanced Rural Tourism （農村観光特論）	1	

科目区分	コース名	授　業　科　目	単位数	備　考
	国際・地域マネジメント	Advanced Human Ecology （人類生態学特論）	1	
		Advanced Rural Sociology （農村社会学特論）	1	
		Advanced Insular Socio-Economics （島嶼社会経済学特論）	1	
		Advanced Ecological Anthropology （生態人類学特論）	1	
		Advanced Farming Systems Research （ファーミングシステム研究特論）	1	
Special Seminar Ⅰ （特別演習Ⅰ）			2	8単位必修
Special Seminar Ⅱ （特別演習Ⅱ）			2	
Special Seminar Ⅲ （特別演習Ⅲ）			2	
Special Seminar Ⅳ （特別演習Ⅳ）			2	

別表Ⅲ（第２条関係）

外国人留学生特別科目

授　業　科　目	単位数	備　考
アグロサイエンス特論	1	
アグロサイエンス特別演習	2	

Ⅵ 佐賀大学大学院農学研究科における修士論文等の提出に関する要領

平成16年４月１日
農学研究科委員会

（修士論文の提出）

第１　佐賀大学学位規則（平成16年４月１日制定。以下「学位規則」という。）第５条に規定する修士の学位の授与を受けようとする者は，修士論文を次に掲げるとおり作成し，所定の期日までに提出すること。

１　修士論文の概要（Ａ４判，１頁，日本語又は英語で記載）は，１部を別紙の様式で作成し，農学部教務担当者に提出すること。提出期限は次のとおりとするが，同日が土曜日又は日曜日に当たるときは，その直前の金曜日とする。

９月修了予定者の提出期限　　７月25日

３月修了予定者の提出期限　　１月末日

２　学位申請書は１部を別紙の様式で作成し，農学部教務担当者に提出すること。また，修士論文３部を作成し，指導教員に提出すること。提出期限は次のとおりとするが，同日が土曜日又は日曜日に当たるときは，その直前の金曜日とする。

９月修了予定者の提出期限　　７月末日

３月修了予定者の提出期限　　２月５日

附　則

この要領は，平成16年４月１日から施行する。

附　則（平成22年３月22日改正）

１　この要領は，平成22年４月１日から実施する。

２　平成22年３月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附　則（平成27年１月21日改正）

１　この要領は，平成27年１月21日から実施する。

別　紙

修士論文概要記載要領

(A４判)　　1.5cm アケル

題　　目（中央に書く）

生物資源科学専攻○○○コース○○○分野　　学籍番号　氏　名

１字アケル

２cm
アケル

本　　文

1cmアケル

（注　意　事　項）

この概要は、印刷配布されるものであり、統一のとれた読みやすいものにするため記載に当たっては以下のことに注意してください。

1　用紙のサイズ及び形体は、A４判とし、ワードプロセッサ等を使用してください。

2　本文･題目等は、線で囲む必要はありません。

3　図表は適宜挿入しても構いません。

4　印刷されるので、概要を提出する前に指導教員に目を通してもらい、誤字・脱字等の誤りがないように注意してください。

1.5cm アケル

別紙第１号様式（第７条第１項関係）

修士の学位申請書の様式

学　　位　　申　　請　　書

年　　月　　日

佐賀大学大学院農学研究科長

○　○　○　○　殿

佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻

学籍番号

氏　　名　　印

佐賀大学学位規則第７条第１項の規定により，修士論文を提出しますので，御審査願います。

指導教員

氏　　名　　印

Ⅶ 教育職員免許状（専修）の取得について

教育職員免許状（以下，「免許状」という。）には，一種免許状と専修免許状の2種類がある。一種免許状は，免許状取得に必要な所定の単位を取得して学部を卒業した者に与えられる。専修免許状は，一種免許状を既に取得している者が取得できる免許状で，専修免許科目として認定されている専門科目の所定単位を取得して大学院修士課程を修了した者に与えられる。専修免許状の取得に必要な授業科目と単位数は，別表のとおりである。

本学部及び大学院修士課程で取得できる免許状の種類は，下記のとおりである。

一種免許状（学部卒業）	専修免許状（大学院修了）
中学校教諭一種免許状（理科）	中学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（理科）	高等学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（農業）	高等学校教諭専修免許状（農業）

「理科」（生物資源科学専攻）
専修免許状　中専免・高専免

授　業　科　目	単位数
生物科学特論	1
食資源環境科学特論	1
生命機能科学特論	1
環境地盤学特論	1
環境分析化学特論	1
先端環境分析化学特論	1
分光統計解析学特論	1
土壌物理学特論	1
先端地水学特論	1
水環境工学特論	1
利水解析学特論	1
生産地盤工学特論	1
土質工学特論	1
浅海環境工学特論	1
干潟生態環境学特論	1
応用水利学特論	1
植物環境応答学特論	1
応用植物生理学特論	1
植物系統分類学特論	1
植物病原学特論	1
植物感染病学特論	1
昆虫分子生物学特論	1
先端昆虫分子生物学特論	1
システム生態学特論	1
進化生態学特論	1
動物資源開発学特論	1
生化学特論	1
タンパク質科学特論	1
分子細胞生物学特論	1
細胞情報学特論	1
分子栄養学特論	1
脂質生化学特論	1
人間生態学特論	1
国際環境マネジメント特論	1
生態人類学特論	1
計	24単位

「農業」（生物資源科学専攻）
専修免許状　高専免

授　業　科　目	単位数
熱帯農業資源学特論	1
熱帯資源植物利用学特論	1
熱帯作物改良学特論	1
熱帯作物生理学特論	1
動物発生学特論	1
動物繁殖生理学特論	1
蔬菜花卉園芸学特論	1
園芸植物資源開発学特論	1
花卉園芸学特論	1
植物ウイルス病学特論	1
植物ウイルス学特論	1
線虫学特論	1
先端線虫科学特論	1
家畜行動学特論	1
家畜管理学特論	1
作物生産学特論	1
作物生態学特論	1
生産生態学特論	1
循環型農業生産学特論	1
果樹園芸学特論	1
果樹生産学特論	1
施設園芸学特論	1
植物栄養生理学特論	1
園芸利用学特論	1
園芸植物繁殖学特論	1
施設農業生産学特論	1
農地環境工学特論	1
農地農水計画学特論	1
農用先端機械学特論	1
微生物遺伝学特論	1
真核微生物学特論	1
応用微生物学特論	1
微生物学特論	1
バイオセンシング特論	1
バイオ材料特論	1
食品生化学特論	1
食糧流通貯蔵学特論	1
グリコバイオロジー特論	1
食糧安全学特論	1
農業経済学特論	1
農業ビジネスマネジメント特論	1
アジア比較農業特論	1
ルーラル・デベロップメント特論	1
地域資源マネジメント特論	1
計	24単位

Ⅷ 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）について

本修士課程修了者は鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程に進学できます。

鹿児島大学大学院連合農学研究科は，佐賀大学農学研究科，琉球大学農学研究科，鹿児島大学農学研究科及び鹿児島大学水産学研究科の３大学４研究科から編成され，これらの研究科の緊密な連携のもとに運営されている新しいスタイルの博士課程（修業年限３年）です。各構成大学の教員組織や研究設備を連合して，博士課程の教育研究体制が確立されています。

受験資格は修士課程修了者（修了見込みの者を含む）及びこれと同等の学力を有すると認められる者です。受験者は，構成大学の教員の中から主指導教員についての希望を申し出ることができ，入学すると主指導教員が所属する大学で研究します。学生１人に主指導教員１人及び副指導教員２人がついて研究指導が行われます。

鹿児島大学大学院連合農学研究科に在籍（令和２年10月１日）している学生は111名で，そのうち26名（日本人学生12名及び外国人留学生14名）が佐賀大学の主指導教員のもとで研究指導を受けています。

鹿児島大学大学院連合農学研究科の専攻及び連合講座

専　　攻	連　合　講　座
生物生産科学	熱帯資源・植物生産科学 動物資源生産科学 地域・国際資源経済学
応用生命科学	生物機能化学 食品機能科学 先端対応生命科学
農水圏資源環境科学	生物環境保全科学 地域資源環境工学 水産資源環境科学

Ⅸ 科目等履修生について

大学院の学生が学部の授業科目を履修しようとする場合は，科目等履修生として受講することになる。希望する学生は，科目等履修生入学願書等を前学期（春学期）については２月末日まで，後学期（秋学期）については８月20日までに学生センター（農学研究科教務担当）に提出すること（「佐賀大学科目等履修生規程」参照（学生便覧掲載））。

なお佐賀大学科目等履修生規程の別表１（第11条第３項関係）に掲げる授業科目を履修し，単位の認定を受ける場合は，検定料，入学料及び授業料は必要ない。

○佐賀大学科目等履修生規程別表１（第11条第３項関係）について

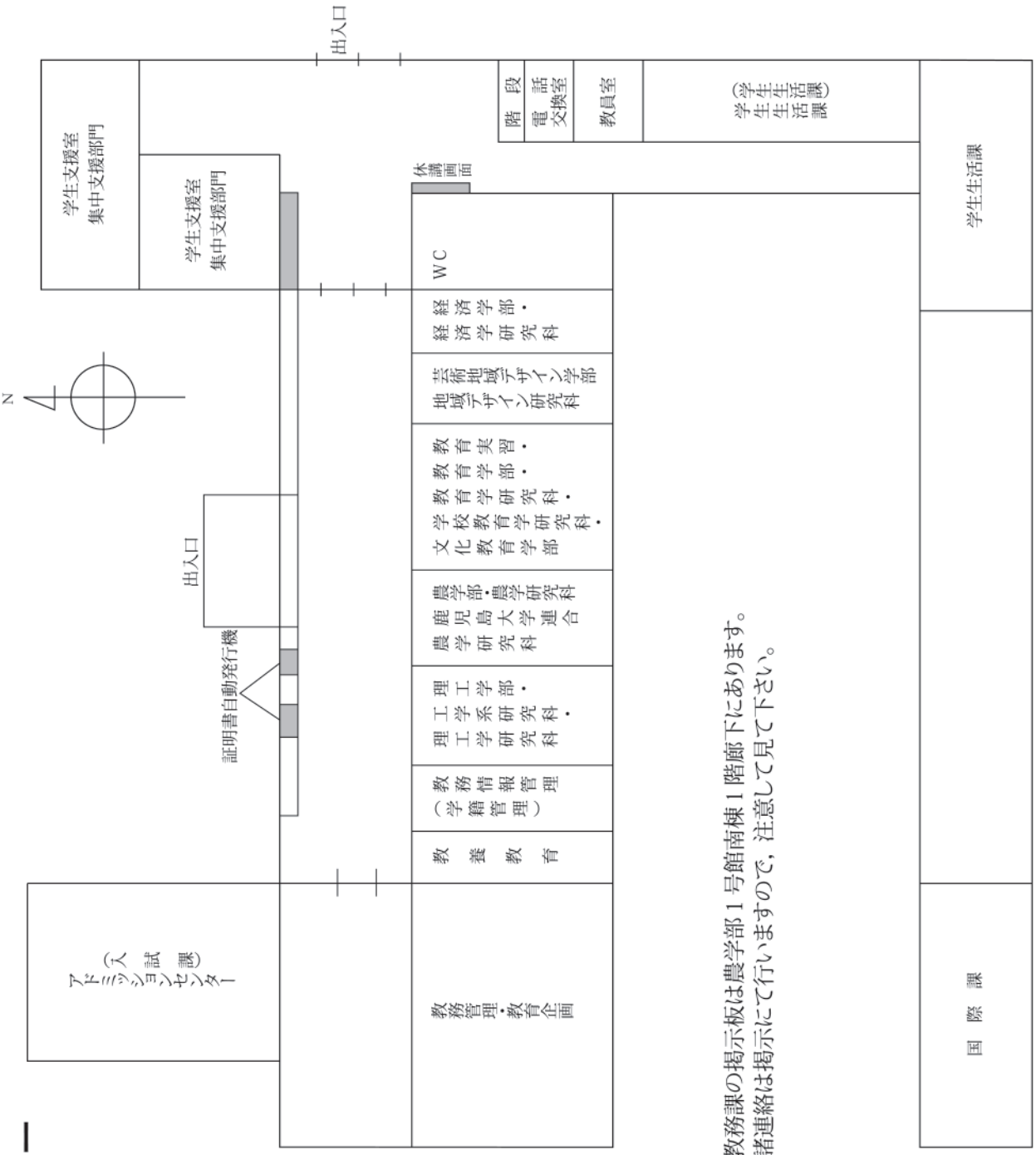
佐賀大学科目等履修生規程別表１

学　部　等	授　業　科　目
全学部及び全学教育機構	教員の免許状取得に必要な授業科目 研究科が指定する学部の授業科目

佐賀大学科目等履修生規程別表１（第11条第３項関係）で，農学研究科が指定する学部の授業科目は次のとおり。

資　格　名	科　目　名
家畜人工授精師 （応用生物科学科及び生物資源科学科生物科学コースの卒業生のみ）	動物繁殖生理学，動物遺伝育種学，畜産学，動物飼養管理学
測量士補及び測量士 （生物資源科学科食資源環境科学コースの卒業生のみ）	測地学Ⅰ，測地学演習Ⅰ，測地学Ⅱ，測地学演習Ⅱ
食品衛生管理者 食品衛生監視員	土壌学，植物栄養学，生物化学，応用微生物学，栄養化学，食品化学，生物有機化学，農薬化学
農業技術検定	フィールド科学基礎実習Ⅰ，フィールド科学基礎実習Ⅱ，遺伝資源フィールド科学実験Ⅰ，遺伝資源フィールド科学実験Ⅱ

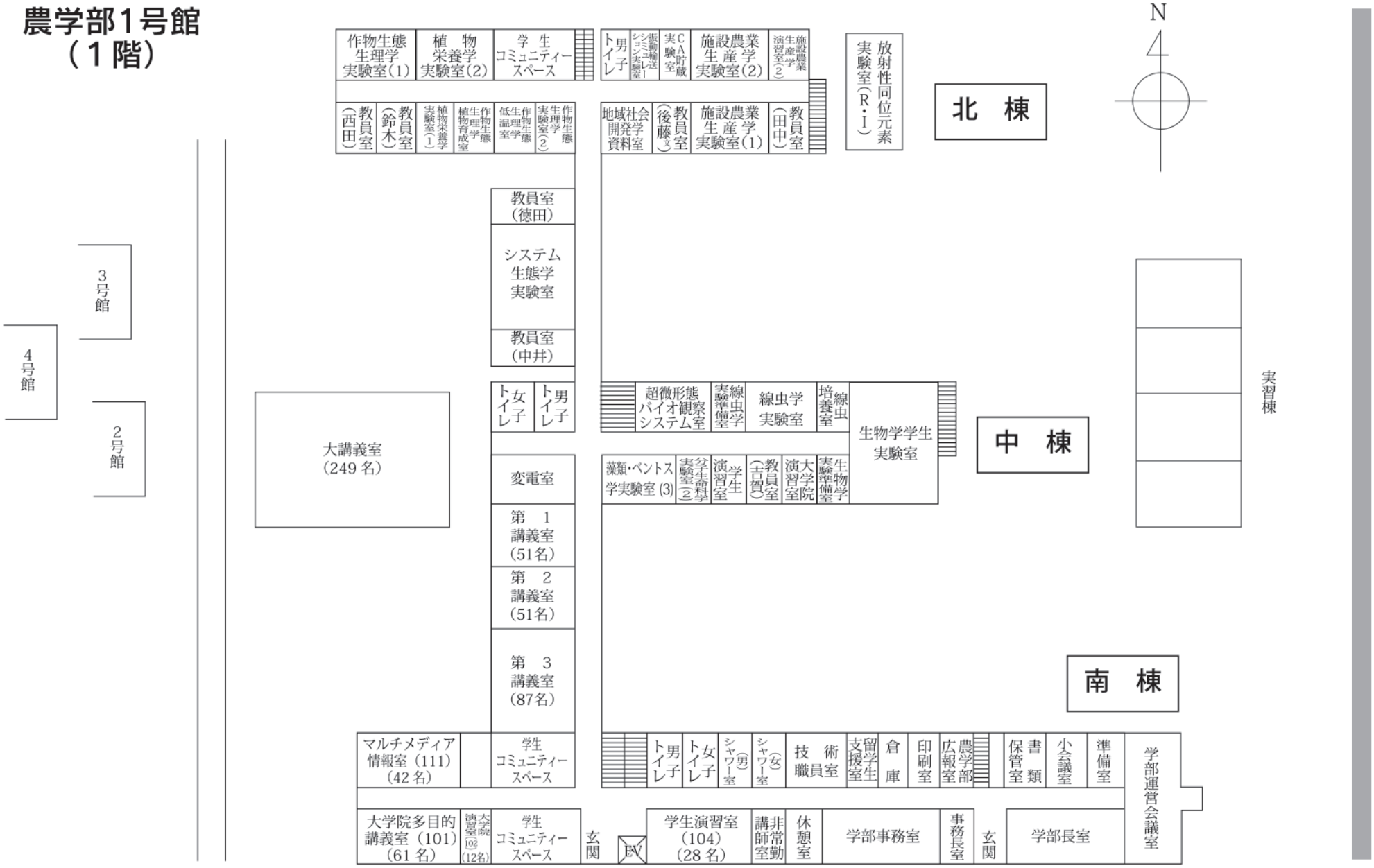
X 講義室などの配置図



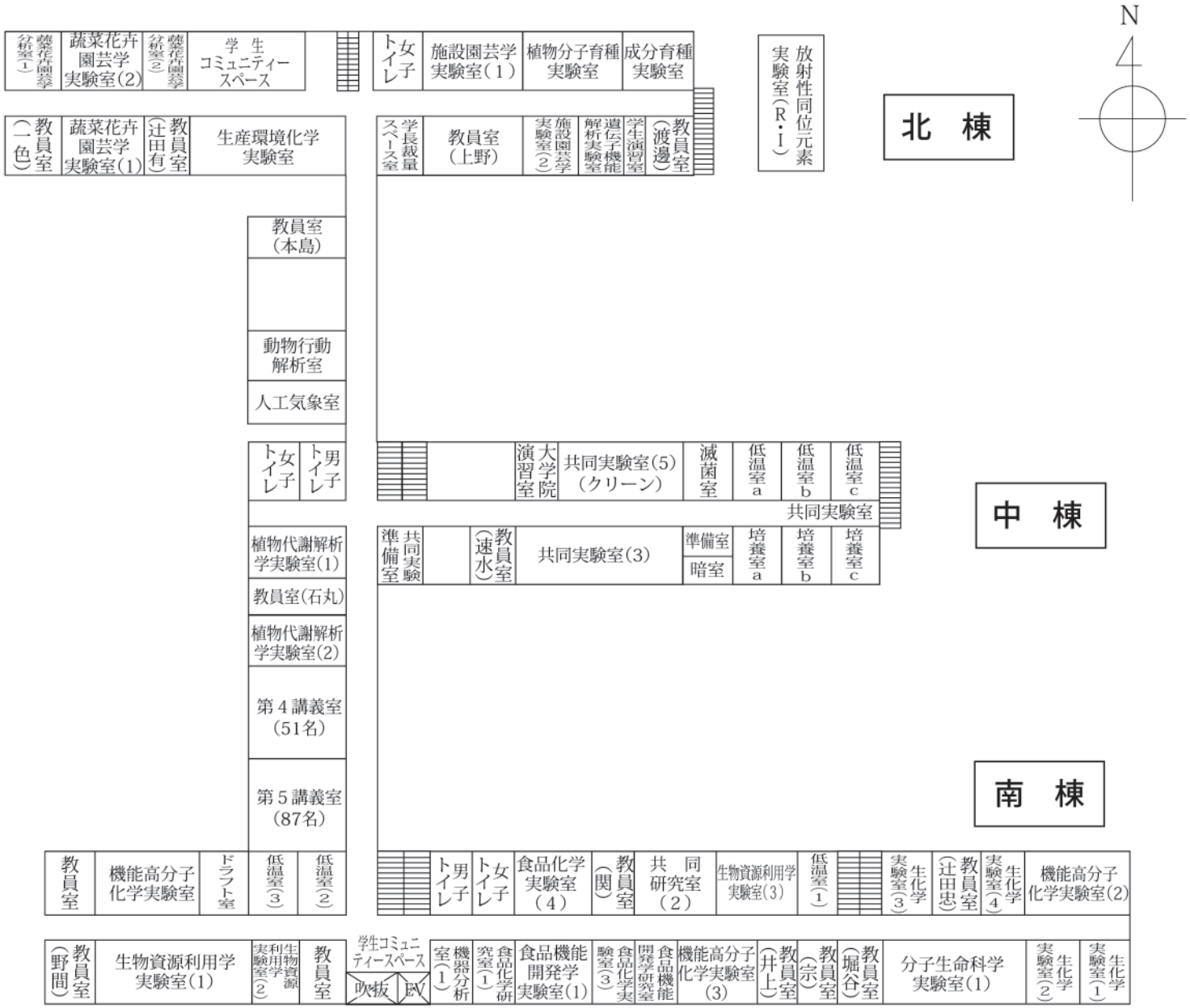
※教務課の掲示板は農学部1号館南棟1階廊下にあります。
諸連絡は掲示にて行いますので，注意して見て下さい。

学生センター

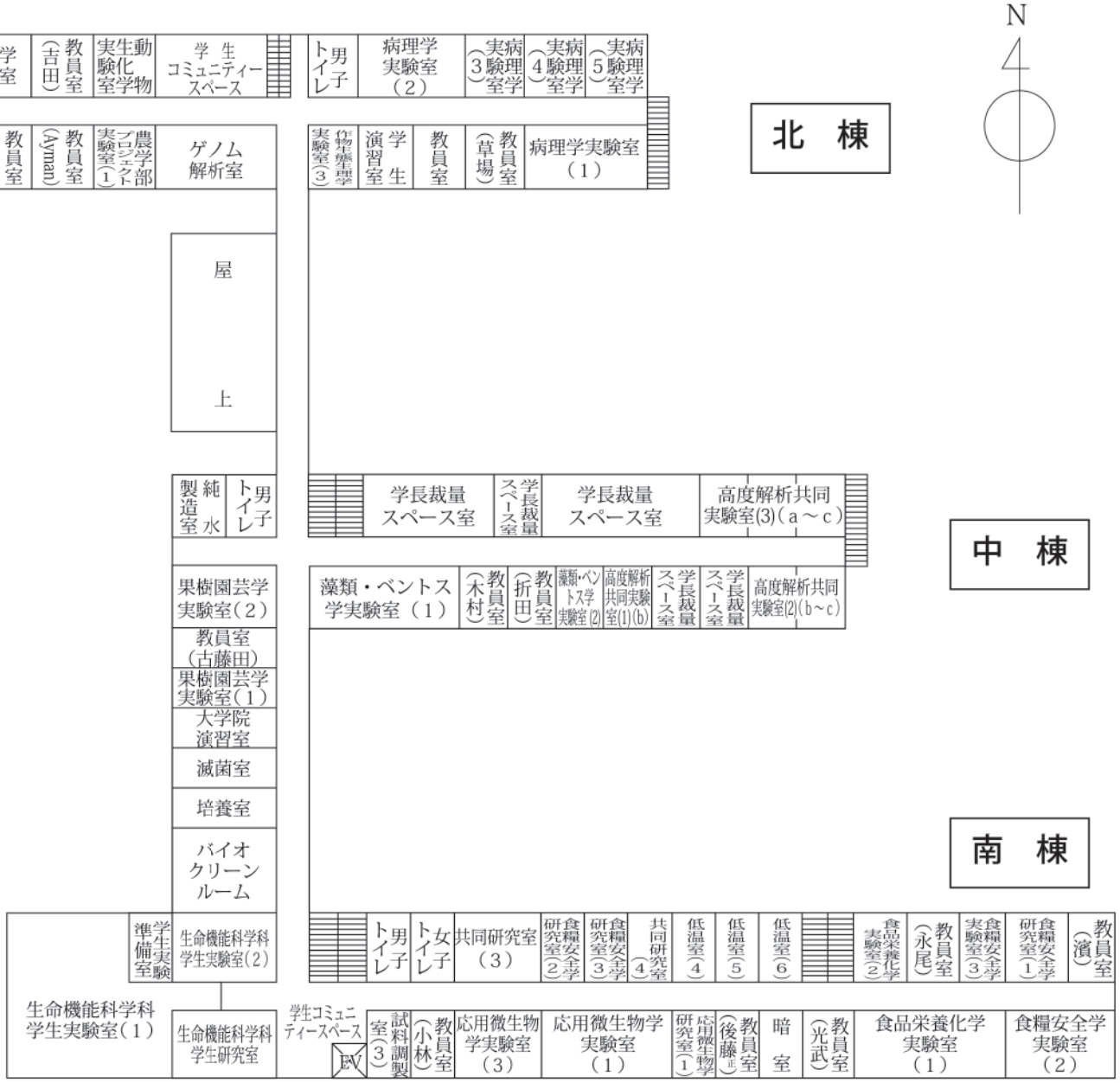
農学部1号館（1階）


N
北　棟
中　棟
南　棟
実習棟
放射性同位元素実験室（R・I）
作物生態生理学実験室（1）
植物栄養学実験室（2）
学生コミュニティースペース
男子トイレ
振動・輸送シミュレーション実験室Ⅰ
実験室CA貯蔵
施設農業生産学実験室（2）
施設農業生産学演習室（2）
教員室（西田）
教員室（鈴木）
植物栄養学実験室（1）
植物育成室
作物生態生理学
低温室
作物生態生理学
作物生態生理学実験室（2）
地域社会開発学資料室
教員室（後藤）
施設農業生産学実験室（1）
教員室（田中）
教員室（徳田）
システム生態学実験室
教員室（中井）
3号館
4号館
2号館
大講義室（249名）
女子トイレ
男子トイレ
超微形態バイオ観察システム室
線虫学実験準備室
線虫学実験室
線虫培養室
生物学学生実験室
藻類・ベントス学実験室（3）
分子生命科学実験室（2）
学生演習室
教員室（吉賀）
大学院演習室
生物学実験準備室
変電室
第1講義室（51名）
第2講義室（51名）
第3講義室（87名）
マルチメディア情報室（111）（42名）
学生コミュニティースペース
男子トイレ
女子トイレ
男子シャワー室
女子シャワー室
技術職員室
留学生支援室
倉庫
印刷室
農学部広報室
書類保管室
小会議室
準備室
学部運営会議室
大学院多目的講義室（101）（61名）
大学院演習室（102）（12名）
学生コミュニティースペース
玄関
EV
学生演習室（104）（28名）
非常勤講師室
休憩室
学部事務室
事務長室
玄関
学部長室

農学部1号館（2階）

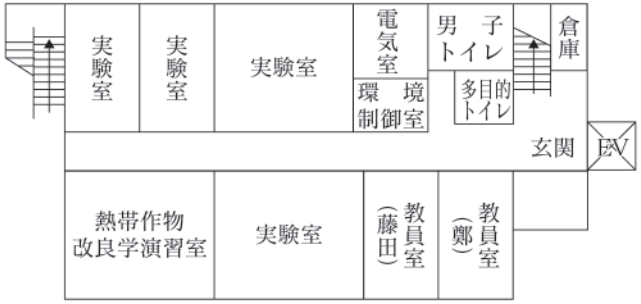

N
北　棟
中　棟
南　棟
放射性同位元素実験室（R・I）
女子トイレ
施設園芸学実験室（1）
植物分子育種実験室
成分育種実験室
学生コミュニティースペース
蔬菜花卉園芸学実験室（2）
蔬菜花卉園芸学分析室（2）
蔬菜花卉園芸学分析室（1）
教員室（渡邊）
学生演習室
遺伝子機能解析実験室
施設園芸学実験室（2）
教員室（上野）
学長裁量スペース室
教員室（辻田有）
蔬菜花卉園芸学実験室（1）
教員室（一色）
生産環境化学実験室
教員室（本島）
動物行動解析室
人工気象室
低温室c
低温室b
低温室a
滅菌室
共同実験室（5）（クリーン）
大学院演習室
共同実験室
男子トイレ
女子トイレ
培養室c
培養室b
培養室a
暗室
準備室
共同実験室（3）
教員室（速水）
共同実験準備室
植物代謝解析学実験室（1）
教員室（石丸）
植物代謝解析学実験室（2）
第4講義室（51名）
第5講義室（87名）
低温室（2）
低温室（3）
ドラフト室
機能高分子化学実験室
教員室
機能高分子化学実験室（2）
実験室（4）生化学
教員室（辻田忠）
実験室（3）生化学
低温室（1）
生物資源利用学実験室（3）
共同研究室（2）
教員室（関）
食品化学実験室（4）
女子トイレ
男子トイレ
実験室（1）生化学
実験室（2）生化学
分子生命科学実験室（1）
教員室（堀谷）
教員室（宗）
教員室（井上）
機能高分子化学実験室（3）
食品機能開発学研究室
食品化学実験室（3）
食品機能開発学実験室（1）
機器分析室（1）
食品化学研究室（1）
学生コミュニティースペース
吹抜
EV
教員室
生物資源利用学実験室（2）
生物資源利用学実験室（1）
教員室（野間）

農学部1号館（3階）

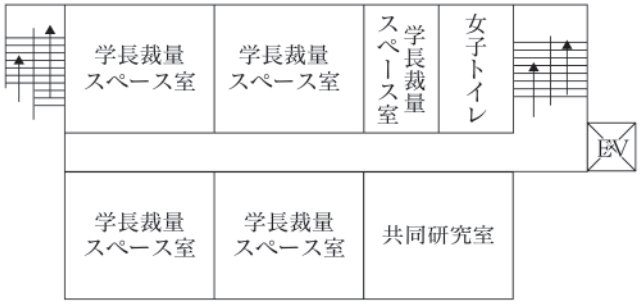

N
北　棟
中　棟
南　棟
動物生理学実験室
教員室（吉田）
実験室
生命機能科学科学生実験室
学生コミュニティースペース
男子トイレ
病理学実験室（2）
病理学実験室（3）
病理学実験室（4）
病理学実験室（5）
教員室（下村）
教員室（山中）
教員室（Ayman）
農学部プロジェクト実験室（1）
ゲノム解析室
生命機能科学科学生実験室（3）
学生演習室
教員室
教員室（草場）
病理学実験室（1）
屋上
純水製造室
男子トイレ
学長裁量スペース室
学長裁量スペース室
学長裁量スペース室
高度解析共同実験室(3)（a～c）
果樹園芸学実験室（2）
教員室（古藤田）
果樹園芸学実験室（1）
大学院演習室
滅菌室
培養室
バイオクリーンルーム
藻類・ベントス学実験室（1）
教員室（木村）
教員室（折田）
藻類・ベントス学実験室(2)
高度解析共同実験室(1)(b)
学長裁量スペース室
学長裁量スペース室
高度解析共同実験室(2)（b～c）
学生実験準備室
生命機能科学科学生実験室（2）
生命機能科学科学生実験室（1）
生命機能科学科学生研究室
学生コミュニティースペース
EV
試料調製室（3）
教員室（小林）
応用微生物学実験室（3）
男子トイレ
女子トイレ
共同研究室（3）
食糧安全学研究室（2）
食糧安全学研究室（3）
共同研究室（4）
低温室（4）
低温室（5）
低温室（6）
暗室
教員室（光武）
教員室（後藤正）
応用微生物学研究室（1）
応用微生物学実験室（1）
食品栄養化学実験室（2）
教員室（永尾）
食品栄養化学実験室（1）
食糧安全学実験室（3）
食糧安全学研究室（1）
教員室（濱）
食糧安全学実験室（2）

農学部2号館

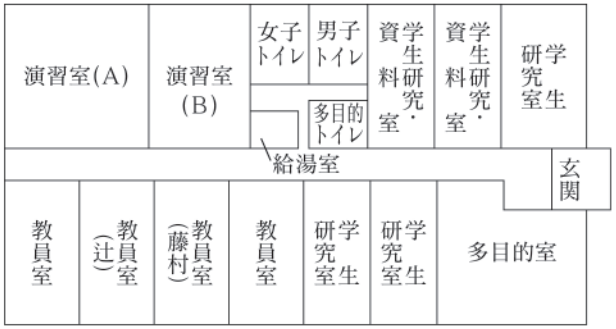
（1階）



（2階）

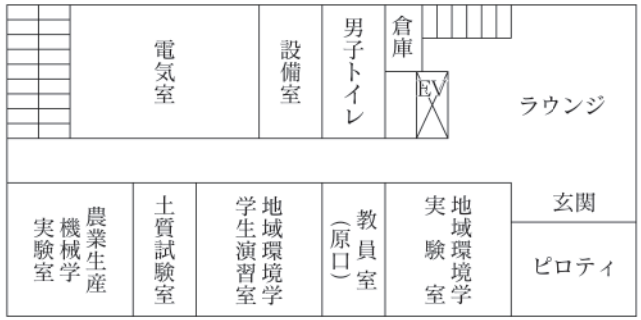


農学部3号館

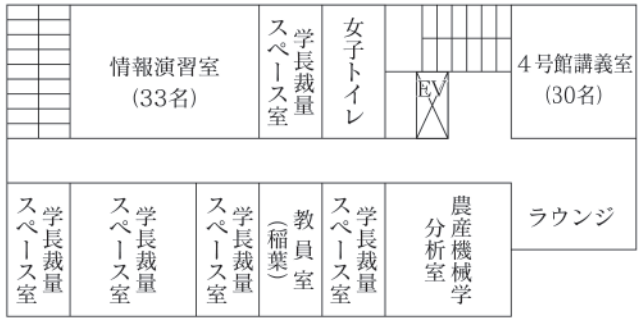


農学部4号館

（1　階）

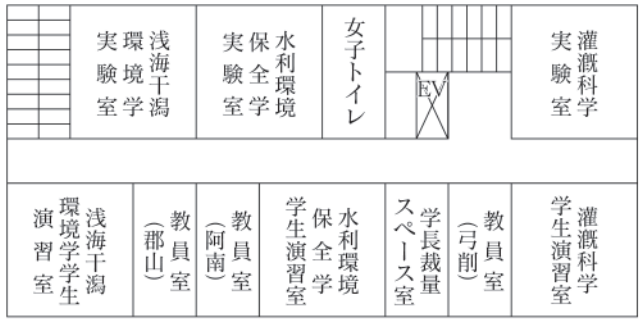


（2　階）

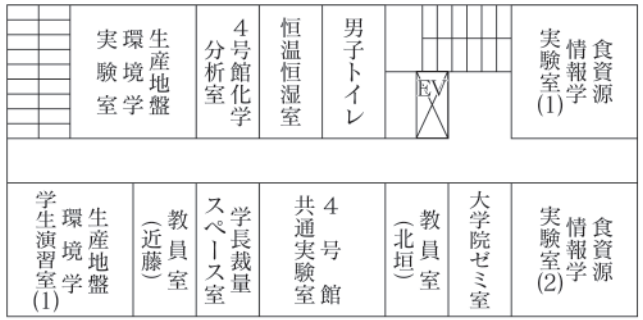


（3　階）

（4　階）

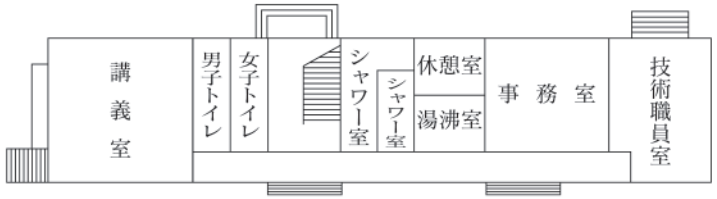


（5　階）

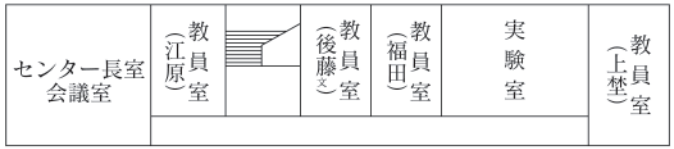


アグリ創生教育研究センター本部

（1階）

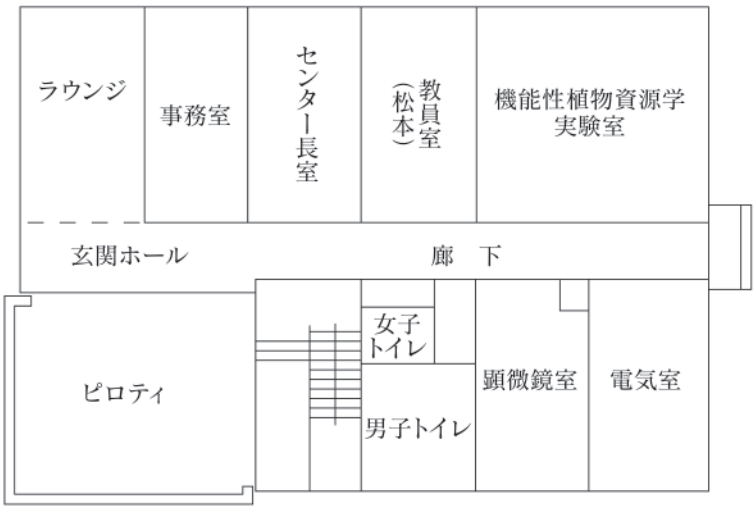


（2階）

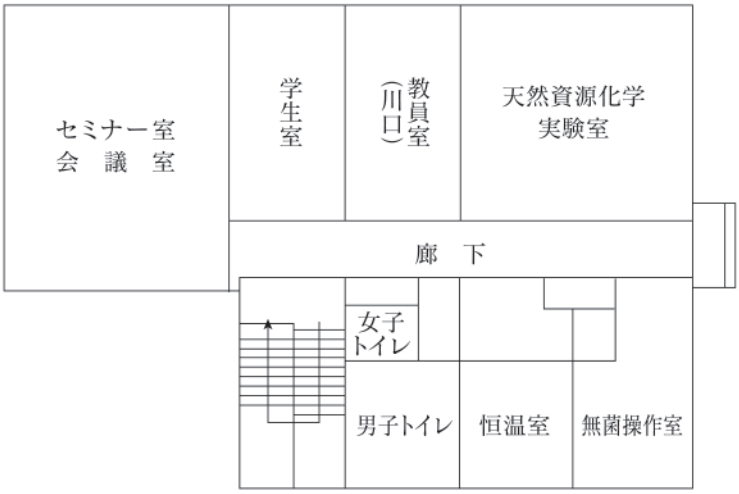


アグリ創生教育研究センター　唐津キャンパス

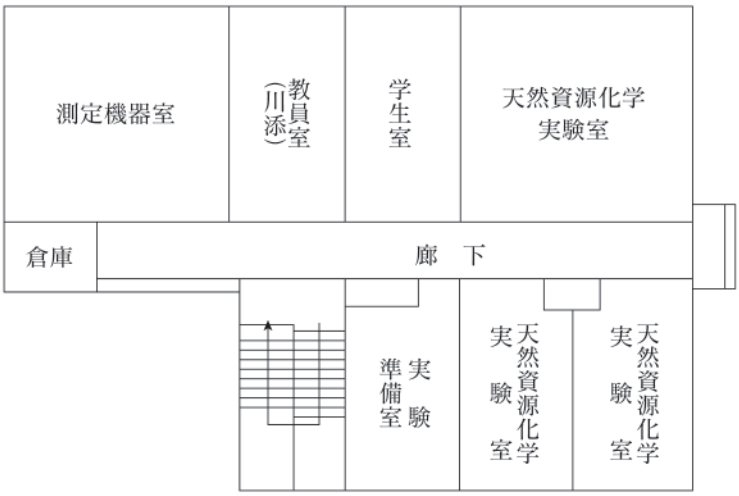
1階



2階



3階



この冊子は再生紙を使用しています。